

【ES】 教職論		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	矢田貝 真一						
資格・制限等	幼免・保育必修						
実務家教員	中学校教諭・20年						
授業内容	主に未発達な子供を保育・教育することで、その生涯に大きな影響を与える重要な仕事である教育職(保育職)について、職務内容を現場のしくみや具体的な事象、保護者や地域等との連携の実態などに即して様々な面から理解し、その専門性を考え、役割について考察することで理解を深めていきます。						
授業方法	講義を中心としますが、グループでの討議や発表も取り入れながら進める予定です。知識を身につけるだけでなく、教育や保育に携わる職への自分なりのとらえ方や考え方を形成していくことをめざしていきます。						
到達目標	知識・理解	教育・保育職に必要なとなる教職の意義・教員の役割・資質能力・職務内容等に関する基本的な知識、地域との連携及び安全への対応に関する基礎的知識を身につけて、教育・保育職のあり方を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	知識と理解をもとに、教育・保育職の適性について考えて判断するとともに、指導や支援にあたって求められる思考や判断の力について考え、それらを適切に表現することができる。			○		
	技能	教育・保育職に必要なとなる基礎的な技能を理解して身につけることができる。			△		
	関心・意欲・態度	教育・保育職のあり方に興味や関心を持って学ぶ意欲を高め、その職に関する知識や理解、思考や判断する力を積極的に身につけようと努力しながら学修に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		45	15	－	－	60
	発表・レポート		5	5	5	5	20
	自己評価		5	－	－	5	10
	受講態度		5	－	－	5	10
	合 計(点)		60	20	5	15	100
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取組・発表・提出等の状況とします。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には規定により単位を与えません。						
テキスト	『保育者・小学校教諭・特別支援学校教諭のための教職論』戸江茂博(監修) 他 北大路書房(2,300円) ISBN:978-4762828829						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』・『特別支援学校幼稚部教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年。『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。『小学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領』文部科学省、平成29年。他に必要な資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス (この授業の目標と学ぶ内容、どのように学ぶのか、学ぶ心構えなどを理解し、教職について考える) [課題・準備] テキスト第1章と第2章を参考に、幼稚園教員や保育士に必要な資質や能力を調べてまとめる (3～6h)						
2	教職の意義と教員の資質 (授業外の課題で調べてきたことも活用しながら、教職の変遷と社会的意義、教員の存在意義と特徴・求められる資質能力を理解する) [課題・準備] テキスト第3章を参考に復習する・教師を他の職業と比較しながら特徴を調べてまとめる (3～4h)						
3	教師の特性と社会的課題 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、職業の中での教員の特徴について考え、教員の役割と教育的諸課題、公教育とそのあり方を理解する) [課題・準備] テキスト第13章を参考に、教員・保育者の職務や役割を調べてまとめる (3～6h)						
4	教員・保育者の種類と職階 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、学校・園における教員・保育者の職の種類と教員の職階について理解する) [課題・準備] テキスト第4章を参考に復習する・提示された教育課題について調べてまとめる (3～6h)						
5	教員の職務内容 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、職務内容と校務・園務分掌についての知識を深め、学校安全への対応と事故対応・危機管理、職員会議について理解する) [課題・準備] テキスト第4章を参考に復習する・提示された教育課題について調べてまとめる (3～6h)						
6	子供の理解と指導・支援 (教師の基本となる子供理解の方法と要点・支援のあり方、教育相談の意味と方法について理解し、具体的な事例について考える) [課題・準備] テキスト第8章を参考に復習する・保護者との連携のあり方について実習での体験もふまえながらまとめる・これまでの学修を復習する (4～7h)						
7	中間のまとめ (授業外にまとめた課題なども活用しながら、第1回～第6回の内容を再確認してまとめることで理解を深める) [課題・準備] 理解が不十分だったこれまでの学修内容について復習する (3～6h)						
8	教員・保育者の研修と服務 (幼児教育の教員や保育士に必要な具体的資質と能力を再確認し、研修の意義と実際、服務の意味と職務における義務・制限と身分保障について理解する) [課題・準備] テキスト第13章を参考に復習する・テキスト第11章と第14章を参考に、学校種で異なる教員の特性等を調べてまとめる (3～6h)						
9	幼稚園教員・保育士の特性とあり方 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、幼稚園教育・保育所保育の基本と幼稚園教員・保育士の特性とあり方について理解を深め、小中高校の教員との共通点とちがいを考える) [課題・準備] テキスト第11章と第14章を参考に復習する・就職支援課等にある資料やインターネットを活用して、保育者の給与等の労働条件について調べてまとめる (3～6h)						
10	保育者の給与と休暇 (授業外の課題で調べてきた課題の内容も活用しながら、給与と休暇の基本的な考え方、幼稚園教員・保育士の給与と休暇について理解する) [課題・準備] 『小学校学習指導要領』を参考に、小学校の生活科について目標等を調べてまとめる (3～6h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	幼稚園・保育所等と小学校との連携と教員・保育者（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、幼稚園教育・保育所保育と小学校教育のちがい、小学校との連携の必要性和方法、小学校生活科の教科目標と実際などについて理解する） [課題・準備] テキスト第12章を参考に復習する・テキスト第2章と『特別支援学校幼稚部教育要領』を参考にしながら、身近にある特別支援学校について調べてまとめる（3～6h）
12	特別支援教育のあり方と教員・保育者（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、特別支援教育と特別支援教育における幼稚園・保育所・認定こども園と保育者の役割、特別支援学校との連携などについて理解を深める） [課題・準備] テキスト第12章を参考に復習する・地域と学校・園との連携のあり方について、具体的な事例を調べてまとめる（3～6h）
13	チームとしての学校・園と地域との連携（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、園の役割の拡大と連携・分担の必要性、地域との連携・協働の重要性などについて理解する） [課題・準備] テキスト第9章を参考に復習する・テキスト第10章他を参考にしながら、教職に関する課題について調べてまとめる（3～6h）
14	教職をめぐる課題（授業外の課題で調べてきた課題を出し合いながら、さまざまな課題の内容、そのとらえ方と考え方などについて理解を深め、発表に向けてグループで考えをまとめる） [課題・準備] 調べてまとめた内容についてテキストを参考に直視し、発表できるようにグループでも準備する（3～6h）
15	まとめと発表（これまでの授業で学んだことを参考にしながら、教職をめぐる課題について一人一人がしっかりとまとめ、グループでわかりやすく発表する） [課題・準備] テキストと配付資料を参考に全体的な復習をする（5～8h）
時間外での学修	[課題・準備]は、授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので、（ ）の標準学修時間をめどにして確実に学修しましょう。
受講学生へのメッセージ	これまでの経験や実習の成果を積極的にいかしながら、学びの中で自分なりの意見や疑問を持ちましょう。オフィスアワーはA305(A号館3F)で毎週木曜日の16：00から17：00です。質問等があれば、どうぞ。

【ES】相談援助		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	山田 武司						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	社会福祉の相談援助分野13年10か月（精神科病院・3年7か月、一般病院・3か月、在宅介護支援センター・1年、知的障害者小規模作業所・3年、社会福祉士事務所（介護支援専門員業務を含む）・1年11か月、精神障害者小規模作業所・4年）						
授業内容	保育所や児童福祉施設において、保護者などへの相談援助行うことは保育士にとって大切なこととなります。この授業では福祉の専門職である保育士として、相談援助の知識や方法を身につけていきます。						
授業方法	グループワークやロールプレイ、課題への取り組み、発表などを含めて参加型の授業を行います。						
到達目標	知識・理解	保育士として、保護者などへの相談援助を行うための知識を修得することができる。			◎		
	思考・判断・表現	相談援助の基本となる思考力や判断力を培うことができる。			○		
	技能	相談援助の技能を通して、保護などと柔軟に関わり連携することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	相談援助を行う上で、子どもを取り巻く環境などに関心をもち、子どもの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとすることができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験又はレポート		30	10	10	－	50
	平常点		10	10	20	10	50
	合 計(点)		40	20	30	10	100
評価の特記事項	平常点は、授業でのグループワーク、ロールプレイ、課題への取り組み、発表などを含みます。						
テキスト	『保育者のための相談援助＜第3版＞』小林育子・小館静枝・日高洋子 萌文書林(1,728円)ISBN:978-4-89347-302-8						
参考書・教材	授業中に指示。またはプリントを配付します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、相談援助の理論（授業の目標や学ぶ内容及び相談援助の理論について理解する） 〔準備・課題〕これまで自分が相談に乗ったり、援助したことについてまとめる。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
2	相談援助の意義（保育士にとっての相談援助の意義を理解する） 〔準備・課題〕なぜ保育士にとって相談援助が必要なのかを考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
3	相談援助の機能（相談援助の機能や役割について理解する） 〔準備・課題〕相談援助の機能や、保育士が相談を受ける場合に生じるジレンマについて考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
4	相談援助とソーシャルワーク（ソーシャルワークの定義や構造について理解する） 〔準備・課題〕ソーシャルワークに関する資料や記事などを読む。学習した内容を復習しまとめる（1h）						
5	保育とソーシャルワーク（保育現場に求められるソーシャルワークを理解する） 〔準備・課題〕保育現場や保育士の専門性から、求められるソーシャルワークを考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
6	相談援助の対象（保育における相談援助の対象を理解する） 〔準備・課題〕保護者、地域など相談援助の対象と予測できる相談内容を考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
7	相談援助の過程（問題の発見から終結までの流れを理解する） 〔準備・課題〕親の養育においてどのような問題やニーズがあるのか、どのような援助を必要としているのかを考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
8	相談援助の技術・アプローチ（相談援助に必要な技術やアプローチを理解する） 〔準備・課題〕関連する科目での学びを含めて、相談援助において大切なものを考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
9	相談援助の記録（記録の方法や、ジェノグラム・エコマップについて理解する） 〔準備・課題〕記録をする上で必要な項目を考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
10	相談援助の計画（事例を基に援助計画について理解する） 〔準備・課題〕実施7回の準備・課題で考えた問題やニーズへの援助方法を考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
11	相談援助の評価（事例をもとに援助の実施からモニタリング、評価を理解する） 〔準備・課題〕援助がうまくいかなかった場合にどう対応すべきかを考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
12	相談援助における専門職との連携と社会資源の活用（相談援助における多様な専門職との連携や社会資源の活用・開発等を理解する） 〔準備・課題〕保育や相談援助を行う上で、保育現場が連携する機関・専門職を考える。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
13	事例検討（障害児や虐待などの事例を検討する） 〔準備・課題〕障害児や児童虐待など、児童の養育に関する事例を新聞記事や文献、ホームページから探し、グループの人数分をコピーしてくる。学習した内容を復習しまとめる。（1～2h）						
14	相談場面のロールプレイ（相談場面を設定し、家族と保育士役のロールプレイを行う） 〔準備・課題〕親の立場で具体的な相談内容を考えてくる。ロールプレイの内容を振り返る。（1～2h）						
15	まとめ（これまでの授業の内容を振り返り、保育士にとっての相談援助のあり方を考える） 〔準備・課題〕授業で学んだ内容を振り返りまとめる。（1～2h）						
時間外での学修	準備・課題で示した内容を行ってください。授業中に出す課題は宿題にする場合があります。第13回は事例を必要枚数コピーして持ってきてもらいますが、第12回に事例の原稿を持ってきた場合は、教員がコピーします。						

受講学生への メッセージ	保育士は福祉の専門職です。保育現場において相談援助を活用できる保育士を目指してください。 オフィスアワー：質問等があれば、授業の前後に教室で声をかけてください。
-----------------	---

【ES】 社会的養護		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	学校教員20年						
授業内容	少子高齢、景気の低迷、社会不安など、子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。それは、一般家庭における児童虐待の報告件数にも現れ深刻さを増し、また、児童養護施設に入所あるいは里親委託された社会的養護児童の中にも虐待児の占める割合が増加しています。授業では、子どもの権利や児童虐待について考え、社会的養護の制度や内容を理解し、根拠に基づいたケースの理解と援助の方法を学びます。						
授業方法	講義と演習 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。						
到達目標	知識・理解	児童の社会的養護についての深い知識を持ち、現状と課題を理解して説明ができる。			◎		
	思考・判断・表現	保育者として様々な価値観に対応できる柔軟さを身につけることができる。			○		
	技能	保育者として児童に対して有効な手だてを講ずるためのアセスメント力を高める。			◎		
	関心・意欲・態度	社会的養護児童のアセスメントを通じて、様々な考えや意見をまとめることができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	-	60
	発表・レポート		-	5	10	5	20
	自己評価		5	-	5	-	10
	提出物		-	-	-	10	10
	合 計(点)		35	15	35	15	100
評価の特記事項	3分1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。						
テキスト	授業時にプリント配布します。						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 小池由佳・山縣文治『社会的養護』ミネルヴァ書房 増沢高『社会的養護児童のアセスメント』明石書店                    その他 授業時に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：進め方、評価方法などの説明 授業の概要を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
2	社会的養護の概要：社会的養護の必要性 専門性を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
3	児童養護問題および政策の特徴：多様化する児童養護施設の取り組みから学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
4	現代社会に暮らす子どもと家庭：日本における子どもと家族の置かれた現状から学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
5	子どもの権利について：人権としての権利 子どもの権利における大人の役割について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
6	児童養護の体系：施設養護、家庭的養護、在宅養護（在宅福祉サービス）等の全体を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
7	児童養護の制度：児童養護の相談機関を知る 児童相談所、児童家庭相談等について具体的に知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
8	施設養護について(1)：児童養護施設について 施設の役割、施設で暮らすこと、施設の問題と課題を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
9	施設養護について(2)：児童養護施設について 当事者の手記より学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
10	施設養護について(3)：乳児院について 情緒障害児短期治療施設について 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						
11	家庭的養護について：里親とは 現状と課題を知る 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	施設養護の実際：日常生活および自立支援について学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)
13	社会的養護児童のアセスメント(1) 課題に対して小レポートの提出 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう  [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)
14	社会的養護児童のアセスメント(2) 事例検討を通じて社会的養護児童の援助の難しさを知り、チームアプローチの大切を知る 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)
15	社会的養護児童のアセスメント(3)：事例検討を通じてアセスメントを繰り返すことの重要性を学ぶ 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2～4h)
時間外での学修	児童養護施設、里親制度に関わる当事者の手記を最低一冊は読んでおいてください。そこから、自らの体験を通じて感じとることも大切な学習のひとつです。
受講学生へのメッセージ	授業では演習も取り入れます。保育現場には多くの課題を抱えた子ども達がたくさん在籍しています。子どもを深く愛し、寄り添える保育者になるために学んでいきましょう。 オフィスアワーは、H号館207号室 木曜日16時10分からです。

【ES】子どもの発達と学び		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	名和 孝浩						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	保育所保育士・9年						
授業内容	事例検討や集団討議を通して、発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育とはどのようなものか理解を深める。エピソード記録から子どもの発達と学びを読み解くことで、省察的実践者としての基礎的な技能を身につける。						
授業方法	講義と演習を組み合わせで行う。特にグループワーク形式での事例検討や意見交流を多く行うため、参加態度や発言内容を重視する。						
到達目標	知識・理解	乳幼児の発達過程と、それを踏まえた保育内容について理解を深める。			○		
	思考・判断・表現	子どもの実態を把握し、発達に応じた遊びや生活の課題を具体的に示すことができる。			◎		
	技能	子どもの育ちを引き出す援助と展開、環境構成ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	主体的な学びの姿勢をもち、保育者としての専門性を得られるよう自己研鑽できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		レポート	10	20	20	－	50
		受講態度	10	10	10	20	50
		合 計(点)	20	30	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、発表やグループワークの参加態度から総合的に評価します。						
テキスト							
参考書・教材	『保育所保育指針解説書（厚生労働省版）平成30年』フレーベル館 『教育要領と保育指針 幼稚園教育要領解説（文部科学省版）平成30年』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府版）平成27年』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 〔準備・課題〕これまでに経験した保育実践を事例として整理し、まとめておく（1h）						
2	子どもの発達特性と学びについて 〔準備・課題〕0～5歳児の発達についてまとめる（3h）						
3	エピソードの書き方と評価（課題としたエピソードの確認） 〔準備・課題〕自分が経験した保育実践をエピソードとしてまとめる（1h）						
4	ロールプレイを通して子どもの発達と内面の読み取りについて考える （課題としてまとめた自分の考えから具体的な保育内容について考えます） 〔準備・課題〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる（1h）						
5	ロールプレイを通して保育者の子どもを捉える視点について考える 〔準備・課題〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる（1h）						
6	ロールプレイを通して保育者の具体的な援助と方法について考える （課題としてまとめた自分の考えから具体的な保育内容について考えます） 〔準備・課題〕保育者の言葉かけについて自分なりに考え、まとめる（1h）						
7	0～1歳児の学びについて 〔準備・課題〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）						
8	2歳児の学びについて 〔準備・課題〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）						
9	3歳児の学びについて「3歳児の保育記録～前半～」から 〔準備・課題〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）						
10	3歳児の学びについて「3歳児の保育記録～後半～」から 〔準備・課題〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）						
11	4歳児の学びについて「4歳児の保育記録」から 〔準備・課題〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）						
12	5歳児の学びについて「5歳児の保育記録」から 〔準備・課題〕各年齢の学びと遊びについてまとめる（1h）						
13	子どもの遊びを考える保育者の視点 〔準備・課題〕指導計画作成時にどのような視点から遊びを考えているか振り返る（1h）						
14	発達や学びの連続性と保幼小の連携 〔準備・課題〕保幼小の連携について調べる（1h）						
15	まとめ・課題の確認 〔準備・課題〕本授業での学びを振り返り、今後の保育実践に向けて意見をまとめる（1h）						
時間外での学修	これまでに蓄積した実習記録から事例を導けるよう、資料をまとめ、整理しておきましょう。						
受講学生へのメッセージ	遊びを中心に子どもが学びを深める保育実践力を理解すること。またグループワークや事例検討を通して、多角的に考察・分析する保育者としてのまなざしを育てましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー（名和研究室、金曜日12：00～13：00）を活用してください。						

【EA】 保育臨床相談		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	茂木 七香						
資格・制限等	幼免必修						
実務家教員	病院臨床心理士6年・学生相談室臨床心理士7年						
授業内容	保育や教育、療育などを行う際に、主となる活動を支えるための臨床相談という仕事があります。この授業では、臨床相談の対象となる相手を理解し、適切な援助を行うための基本的な心がまえや知識、実際に役立つ技法について学びます。特にカウンセリング的アプローチのひとつであるピアヘルピングについては、臨床現場だけでなく日常生活でも実際に使える技法を身につけます。また、自分自身の心の状態の理解やケアの視点についても取り上げます。						
授業方法	基本的には講義形式ですが、ピアヘルピングのエクササイズやグループワークなどもあります。他の人と協力しながら課題に取り組みます。						
到達目標	知識・理解	臨床現場で出会う対象を専門職として援助するために必要な知識を身につけることができる。			◎		
	思考・判断・表現	援助する対象の姿を、その心理状態や理解の度合を考慮して総合的に判断し、関わりに活かそうとする。			◎		
	技能	援助する対象を理解し、相手の特性に合ったコミュニケーションを行うことができる。			○		
	関心・意欲・態度	新たに得た知識をもとに自己理解や他者理解に努め、周囲の人々との連携に努めようとする。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート（中間・期末）		25	10	-	5	40
	授業時間内課題		-	10	10	10	30
	授業時間外課題		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	5	5	10
合 計(点)		35	30	15	20	100	
評価の特記事項	レポート課題(中間・最終) はルーブリック(評価基準)とともに提示します。授業時間内課題とは、授業中に記入して提出していただくミニツペーパーとワークシートのことです。受講態度は授業全体への取り組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合は、単位取得の資格がありません。						
テキスト	「ピアヘルパーハンドブック（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社、1500円 ISBN978-4-8100-1343-6）」に基づいて一部の授業を行うので、できるだけ購入して下さい。						
参考書・教材	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 必要な教材は授業時に配付します。参考書なども適宜紹介します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	臨床の意味と教育相談の位置づけを理解する： 対象の理解 個別性と普遍性 ピアヘルピングについて [準備・課題] 「臨床」とは何か、理解できた内容をまとめる（2～4h）						
2	自己理解とセルフコントロール： 自己の特性の把握 ストレスの測定と対処行動 [準備・課題] 自分にとって有効なストレス対処方法を調べる（2～4h）						
3	自己理解と他者理解について学ぶ： セルフイメージ 他者から見た自分 ノンバーバル（非言語）情報 ノンバーバルコミュニケーション [準備・課題] 身近なノンバーバルコミュニケーションの例を挙げる（2～4h）						
4	構成的グループエンカウンターを体験する①： エクササイズ シェアリング [準備・課題] 構成的グループエンカウンター体験の感想をまとめておく（3～5h）						
5	構成的グループエンカウンターを振り返る①： エクササイズの解説と目的 全体でのシェアリング [準備・課題] 構成的グループエンカウンター体験について600字程度のレポートを書く（3～5h）						
6	カウンセリングについて概観しピアヘルピングとの違いを知る： カウンセリングの歴史と種類 カウンセリングの方法と事例 ピアヘルピングとは [準備・課題] 構成的グループエンカウンター体験について600字程度のレポートを書く（3～5h）						
7	各自書いてきたレポートの内容をもとにグループワークを行う。ピアヘルピングの言語的技法を学ぶ①：受容 繰り返し 明確化 [準備・課題] 他の人とレポート交流をして新たに得たことをまとめる（2～4h）						
8	ピアヘルピングの言語的技法を学ぶ②：支持 質問 ピアヘルピングの非言語的技法 [準備・課題] ピアヘルピングの言語的技法についてまとめておく（2～4h）						
9	ピアヘルピングにおける諸問題の解決方法を学ぶ：対話上の諸問題の解決方法 問題への対処方法 [準備・課題] ピアヘルピングにおける諸問題の解決法をまとめておく（2～4h）						
10	身近な関わりからピアヘルピングの実際を知る： アニメの中に描かれるピアヘルピング 日常生活で行うピアヘルピング [準備・課題] 日常生活の中で行われているピアヘルピングの例を挙げる（2～4h）						
11	ピアヘルピングのまとめと演習を行う： 言語的技法や非言語的技法の振り返り 問題形式の演習 [準備・課題] ピアヘルピングの練習問題に取り組む（3～5h）						
12	言葉を介さず問題を把握し援助する方法を知る①： 遊戯療法 遊びの持つ意味 [準備・課題] 援助対象者を遊びの中で援助する方法を考える（2～4h）						
13	言葉を介さず問題を把握し援助する方法を知る②： コラージュ療法 箱庭療法 [準備・課題] 各療法を援助対象者との関わりに活用する方法を考える（2～4h）						
14	構成的グループエンカウンターを体験する②： エクササイズ シェアリング [準備・課題] 前回の構成的グループエンカウンター体験との違いをまとめる（2～4h）						
15	構成的グループエンカウンターを振り返る②： エクササイズの解説と目的 全体でのシェアリング 全体のまとめ [準備・課題] 最終課題について、期限までにレポートを作成する（8～10h）						



時間外での学修	<p>課題：毎回課せられる授業時間外課題やレポート課題にしっかり取り組んでください。次回の授業で用いることもあります。</p> <p>日常生活：授業で学修した知識や技法を、身の回りの人とのコミュニケーションに早速活かしてみてください。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>この授業で学ぶピアヘルピングについての学修を活かすために、ピアヘルパー資格試験の受験にぜひ挑戦してみてください。将来きっと、公私ともにあなたを支える学びの証になります。オフィスアワーは毎週火曜日の10時～12時、それ以外の時間でも、A306(A号館3階)に気軽に来てください。</p>

【EA】子どもの保健演習		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	清水 美恵・鉦原 直美・戸村 佳美						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	清水：病院看護師10年、鉦原：病院看護師10年、戸村：臨床助産師9年						
授業内容	子どもの健康増進および心身の発育・発達を促す保健活動や適切な対処法について学修する。子どもに多い病気とその予防、保育現場における救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。						
授業方法	講義を中心に、演習も取り入れ授業を行います。						
到達目標	知識・理解	子どもの病気や事故に対しての適切な対処方法を説明できる。			◎		
	思考・判断・表現	子どもの健康増進と子どもを取り巻く生活環境について考えることができ、適切な判断を示すことができる。			○		
	技能	子どもの成長・発達段階における観察の方法、日常生活の援助方法を修得することができる。			○		
	関心・意欲・態度	子どもの保育に関わる保健活動を理解し、保育活動を通して保育者としての役割・機能について認識し、社会貢献できるような態度を養う。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	小テスト		8	-	-	-	8
	レポート		35	27	-	6	68
	演習・参加		-	-	15	9	24
	合 計(点)		43	27	15	15	100
評価の特記事項	レポート、授業および演習への参加貢献を統合して評価します。 提出物の期限遅延は減点対象とします。						
テキスト	『新時代の保育双書 演習 子どもの保健Ⅱ 第2版』今井七重 編 みらい出版(2,376円) ISBN:978-4-86015-433-2						
参考書・教材	授業で提示						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1 清水	ガイダンス 授業の進め方、概要を説明 保育における健康観察の意義 [課題]健康観察の意義について復習する(1h)						
2 清水	子どもに起こりやすい病気の特徴 [課題]病気の特徴について復習する(1h)						
3 清水	子どもに起こりやすい症状の対処 [課題]子どもに起こりやすい症状の対処について復習する(1h)						
4 戸村	新生児の身体的特徴と計測方法 [課題]新生児の身体の特徴について復習する(1h)						
5 戸村	新生児の衣服と清潔ケア (沐浴①) [課題]新生児の衣服と清潔ケアについて復習する(1h)						
6 戸村	新生児の衣服と清潔ケア (沐浴②) [課題]沐浴について復習する(1h)						
7 清水	子どもの感染症に対する予防対策 [課題]子どもに多い感染症について復習する(1h)						
8 清水	保育園における感染症対策 [課題]感染症対策について復習する(1h)						
9 清水	子どもの健康増進および心身の発育・発達を促す保健活動 [課題]保健活動について復習する(1h)						
10 鉦原	保育における健康観察の実際 [課題]子どもの健康観察について復習する(1h)						
11 鉦原	子どもの生理、感覚、運動、神経機能の発達と評価 [課題]子どもの発達と評価について復習する(1h)						
12 鉦原	子どもの保育環境と健康増進 [課題]子どもの保育環境について復習する(1h)						
13 鉦原	子どもの発達援助と心身の健康 [課題]子どもの心身の健康について復習する(1h)						
14 鉦原	子どもに多い事故の特徴と予防対策 [課題]子どもに多い事故について復習する(1h)						
15 鉦原	保育園における応急処置 [課題]子どもの応急処置について復習する(1h)						
時間外での学修	授業の内容は必ず復習し、理解を深めてください。						
受講学生へのメッセージ	子どもの健康・安全の確保は、保育施設での子どもの生活の基本です。子どもの保育に関わる保健活動を考察し、実践につながる学修をしてください。 オフィスアワーは、1号館325研究室 木曜日16：30～17：30						

【ES】子どもの食と栄養		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	後藤 恵子						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員							
授業内容	栄養に関する知識の習得。妊娠期(胎児期)、乳児期、学童・思春期を対象として各段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から学び、子どもの現状を把握し、その後の生涯発達の健康および食生活と、子どもの食生活との関係を理解する。保育現場で子どもの身体状況や栄養状態に応じた食生活の支援ができるよう知識・技能を身につける。						
授業方法	講義や実習を通し、知識や技能を身につける。実習で提示されたテーマをグループ内で話し合い、協力して実習する事で互いに講義で得た知識を確認し合う。						
到達目標	知識・理解	栄養に関する専門的知識に基づき、子ども理解に基づいた援助や適切な支援を行うための知識を修得する。			◎		
	思考・判断・表現	子どもの発育・発達に必要な食事・栄養について理解するとともに子どもの身体状況や栄養状態に応じた支援や時代のニーズに柔軟に対応した支援ができるスキルを身につける。			○		
	技能	食育の基本を理解し、実践の現場で一人ひとりの子どもに応じた援助ができる。保育実践や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと柔軟に関わり連携することができるスキルを身につける。			○		
	関心・意欲・態度	実習やグループ内での意見交換を通じ、連携・協力・主体的参加の能力を身につけ、様々な課題に積極的に行動することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	-	-	50
	課題レポート		5	5	5	-	15
	実習記録		-	-	10	10	20
	授業態度		-	-	-	15	15
合 計(点)		45	15	15	25	100	
評価の特記事項							
テキスト	『子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養』堤ちはる・土井正子 萌文書林(2,400円) ISBN:978-4-89347-154-3						
参考書・教材	新保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領 必要な資料は随時配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	シラバスの説明、オリエンテーション/ 子どもの健康と食生活の意義 【課題】学んだ内容のまとめ、演習問題(2h)						
2	子どもの発育・発達と食生活 【課題】学んだ内容のまとめ、演習問題(2h)						
3	栄養に関する基礎的知識/ 日本人の食事摂取基準の意義とその活用 【課題】各栄養素の種類や働きをまとめる、演習問題(食事バランスガイドを用いて自分自身の食生活を振り返る)(3h)						
4	妊娠期(胎児期)の食生活/ 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 【課題】学んだ内容のまとめ、演習問題(2h)						
5	離乳の意義とその実践、離乳食の進め方 【課題・準備】学んだ内容のまとめ、演習問題(2h)/ 調理実習の予習(2h)						
6	実習①離乳食の調理 【課題】実習記録の作成(2h)						
7	幼児期の心身の発達と食生活 【課題・準備】学んだ内容のまとめ、演習問題(2h)/ 調理実習の予習(2h)						
8	実習②幼児期の食事の調理 1〜2歳児と3〜5歳児の食事 【課題】実習記録の作成(2h)						
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活 【課題・準備】学んだ内容のまとめ、演習問題(2h)/ 調理実習の予習(2h)						
10	実習③幼児期の食事の調理 お弁当と間食 【課題】実習記録の作成(2h)						
11	食物アレルギーのある子どもへの対応 【課題・準備】学んだ内容のまとめ、演習問題(2h)/ 調理実習の予習(2h)						
12	実習④アレルギー対応食の調理 【課題】実習記録の作成(2h)						
13	食育の基本と内容 【課題】学んだ内容のまとめ、食育演習(4h)						
14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 【課題】学んだ内容のまとめ、食育演習(4h)						
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養、疾病および体調不良の子どもへの対応、障がいのある子どもへの対応/ 食育演習発表 【課題】学んだ内容のまとめ、演習問題(2h)/プリントまとめ(3h)						
時間外での学修	講義や実習で学んだことは必ず復習し、分かりやすくまとめておきましょう。						
受講学生へのメッセージ	生活環境・社会環境が複雑多岐にわたる中、保育現場に対する社会の期待や要望は益々大きくないます。ここで修得した地 s 期が生かせるようしっかりと学びましょう。 質問等は講義前後と休憩時間に随時対応します。						

【ES】家庭支援論		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	今村 民子						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	岐阜県中央子ども相談センター子育て対応・里親対応専門職5,5年						
授業内容	現代の多様な社会の現状を把握し、家族や家庭の意義とその機能について理解する。保育者としての専門的知識を生かした家庭支援とは何かを理解し、支援の方法について理解する。						
授業方法	講義が中心。演習形式も取り入れる。						
到達目標	知識・理解	保育者としての専門的知識・技能を身につけ、家庭支援ができる			◎		
	思考・判断・表現	子どもの健やかな成長を願う家庭とは何か、家庭の意味や機能について理解する			◎		
	技能	保育者に求められている子育て家庭への支援について学ぶ			△		
	関心・意欲・態度	家庭支援の意義と限界を理解する			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	期末筆記試験		40	-	-	-	40
	レポート		-	30	-	-	30
	課題への取り組み姿勢		-	-	10	-	10
	授業参加態度		-	-	-	20	20
	合 計(点)		40	30	10	20	100
評価の特記事項	期末筆記試験は資料、テキスト持ち込みなので、授業内容を整理しておくことが望ましい。レポートは、テーマに沿って課す。課題への取り組み姿勢は、自分の問題として積極的に取り組むこと。3分の1以上欠席した学生には単位を認めません。						
テキスト	『実践家庭支援論 第3版』松本園子他著　ななみ書房(2,268円) ISBN:978-4-903355-65-8						
参考書・教材	『保育所保育指針』フレーベル館　『幼稚園教育要領』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館その他、授業中に紹介をします。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション　家庭支援とは何か　子育てと家族・家庭 1 子どもが家庭で家族と育つとはどういうことか理解する。家族図の書き方を知る。 [準備・課題]今日の内容を振り返り、大切なことを確かめる。(1h)						
2	子育てと家族・家庭 1　家族・家庭の動向と現状を知り、課題を理解する。 [準備・課題]今日の内容を振り返り、家族について理解したか確かめる。(1h)						
3	子育てと家族・家庭 2 昔の人の子育てレポートを読んで家族・家庭の動向を知り、現代の課題を理解する。 [準備・課題]授業で行った今と昔の子育ての違いを参考にして、身近な人の子育て経験について聞き取り、レポートを作成すること。(2h)						
4	子どもと家族・家庭 3　課題として各自が聞き取りを行った昔の人の子育て経験レポートをもとにして、グループワークをしながら自分の考えを持つ。 [準備・課題]今日の内容を振り返り、家族について理解したか確かめる。(1h)						
5	子育てをめぐる問題 1 子育て「困難」のさまざま　「専業主婦」と「共働き主婦」それぞれの立場に立ってみてその生活を考え、KJ法を使ってグループでまとめてみよう。 [準備・課題]今日の内容を振り返り、まわりの出来事から子育ての問題となることをみつける。(1h)						
6	子育てをめぐる問題 2 子育て「困難」のさまざま　子育て中の母親の負担感について理解しよう [準備・課題]今日の内容を振り返り、まわりの出来事から子育ての問題となることをみつける。(1h)						
7	子育て家庭支援の政策動向と展望 子育て家庭を社会全体で支えるという考え方と制度について理解する。 グループごとにテーマに沿ってまとめた内容を発表する。 [準備・課題]今日の内容を振り返り、まわりの出来事から子育ての問題となることをみつける。(1h)						
8	子育て家庭支援のあり方 1　子育て家庭支援の目的、対象と援助について理解する [準備・課題]今日の内容を振り返り、学んだことを確かめる。(1h)						
9	子育て家庭支援のあり方 2 相談・援助者の役割と基本的態度についてグループワークをしながら学び、支援者になる姿勢を身につける [準備・課題]今日の内容を振り返り、学んだことを確かめる。(1h)						
10	子育て家庭支援のあり方 3 子育てひろばにおける援助の実践について学び、子育てひろばスタッフに役割を考える [準備・課題]今日の内容を振り返り、学んだことを確かめる。(1h)						
11	子育て家庭支援のあり方 4 保育園通園児の家庭への支援について学び、保育者の姿勢、援助の方法について知る [準備・課題]今日の内容を振り返り、学んだことを確かめる。(1h)						
12	子育て家庭支援のあり方 5 子育て家庭の父親への援助の実践について　父親参加のサロンの様子を知る [準備・課題]今日の内容を振り返り、学んだことを確かめる。(1h)						
13	特別なニーズを持つ家庭と援助 1 障害児・者を持つ家庭を地域で支えることについて考える [準備・課題]今日の内容を振り返り、学んだことを確かめる。(1h)						
14	特別なニーズを持つ家庭の援助 2 乳幼児の虐待が疑われた時、保育者はどのように対応すればよいのか学ぶ [準備・課題]今日の内容を振り返り、学んだことを確かめる。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	<p>特別なニーズを持つ家庭の援助 3  ドメスティック・バイオレンスのある家庭、ひとり親家庭などさまざまな家庭があることを知り、保育者はどのように対応すればよいのか学ぶ  授業全体のまとめ  [準備・課題] 今日の内容を振り返り、学んだことを確かめる。(1h)</p>
時間外での学修	<p>身の回りにある家族の在り方について関心を持ちましょう。テレビや新聞など情報の中でも家族や家庭について関心を持ち、考えたり調べたりすると力がつきてきます。課題レポートでは、テキストや配布資料をよく読んで自分の考えをまとめるようにしましょう。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>子どもだけでなくその背景にある家庭や家族の存在についても心を寄せることができるよう学んでいきます。また家族を支えるための地域の連携、子育て支援についても学ぶので広い視野もつことができるよう期待しています。オフィスアワー：H204研究室毎週月曜16:20～17:00</p>

【ES】 保育内容の指導法(健康)		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	今村 民子						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員							
授業内容	領域「健康」は、幼児の心とからだの健康な育ちを中心に扱う領域です。幼児教育における「健康」の位置づけ、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示される領域「健康」のねらいと内容について学修するとともに、乳幼児期の健康教育の基本的な理論の理解を深めます。乳児期の運動に関する発育発達についても学び、実際に予想される子どもの活動や子どもが楽しむ身体活動について考えながら、保育者の適切な援助の方法とは何かを学びます。						
授業方法	講義と演習						
到達目標	知識・理解	幼児教育における「健康」領域の意味と内容を理解する			◎		
	思考・判断・表現	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うための保育者の在り方を理解する			○		
	技能	領域「健康」における遊びの具体的な手立てや環境構成を考える			◎		
	関心・意欲・態度	子どもの健康に関心を持って実践を振り返り、適切な援助を行うことができる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	<div>評価の観点</div> <div>評価方法</div>	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
		期末試験	30	－	－	－	30
		演習への姿勢	－	20	－	－	20
		レポート	－	－	30	－	30
		授業参加への態度	－	－	－	20	20
		合 計(点)	30	20	30	20	100
評価の特記事項	演習への姿勢は、模擬保育へ向かう関心が高く、意欲的であることが望ましい。 レポートは、テーマに沿った内容や保育体験に関するエピソードの記載があるとよい。 3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『演習保育内容健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』井狩芳子 株式会社萌文書林(1,800円) ISBN: 978-4-89347-275-5						
参考書・教材	『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』フレーベル館 その他必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	健康とは 乳幼児期の健康な生活とは 子どもの健康な育ちについて考えをまとめよう。領域「健康」の内容を理解する。 [準備・課題]テキスト第1部を読んで内容を理解する。(1h)						
2	子どもの全面発達について考えよう。 現代っ子の健康課題と対応策を知る。五感を獲得することの大切さを知る。課題からテキスト第3章のキーワードを確認する。 [準備・課題]テキスト第3章を読んで内容を理解する。(1h)						
3	五感を使う体験をしてみよう。 戸外へ出かけて五感を使って遊びをみつけよう。 [準備・課題]体験した内容を振り返ってまとめる。(1h)						
4	五感を使う体験を遊びにして発表する。 ＜グループワーク＞みつけた遊びを紹介し、子どもの遊びを提案して、紹介する。 DVD「自然は友だち」を視聴して自然体験の大切さを話し合う。 [準備・課題]内容を振り返って理解を深める(1h)						
5	子どもの身体の発達 未熟から成熟への発達の概要とその援助について理解する。 [準備・課題]今日の内容(第7章)を振り返って理解を深める。(1h)						
6	子どもの運動発達の保障と体力 子どもの運動発達の特徴を理解して運動遊びを構成できるようにする。 [準備・課題]今日の内容(第8章)を振り返って理解を深める。(1h)						
7	子どもの育ちと遊びの保障 「遊び」とは何かをもう一度考えて、自ら運動遊びをする子どもを育てるための手立てを計画する。 [準備・課題]今日の内容(第13章)を振り返って理解を深める。(1h)						
8	子どもの育ちと遊びの実践1 「運動遊び」を計画しよう。 ＜グループワーク＞子どもの年齢に応じた運動遊びの指導計画を立てる。 [準備・課題]実際に遊びができるようにしてくる。(1h)						
9	子どもの育ちと遊びの実践2 ＜発表＞グループごとに考えた運動遊びを実際にやってみる。 [準備・課題]実際に遊びができるようにしてくる。(1h)						
10	子どもの育ちと遊びの実践3 ＜発表＞グループごとに考えた運動遊びを実際にやってみる。 [準備・課題]実際に遊びができるようにしてくる。(1h)						
11	子どもの育ちと遊びの実践4 ＜発表＞実際にやってみた運動遊びをさらに工夫して展開する。 [準備・課題]実際に遊びができるようにしてくる。(1h)						
12	基本的生活習慣獲得の保障1 基本的生活習慣にかかわるさまざまな動作は発達年齢に合わせて指導し、達成感や満足感をも育てるものであることを知る。 [準備・課題]今日の内容(第10章)を振り返って理解を深める。(1h)						
13	基本的生活習慣獲得の保障2 基本的生活習慣の自立を促すためのおたより記事を書いてみよう。年齢によりできることが発達する視点を保護者に伝えることができるようにする。 [準備・課題]今日の内容を振り返って理解を深める。(1h)						
14	安全への配慮 子どもの視点に立った安全生活の保障 リスクとハザードの理解し、園庭にある遊具について安全を考えてみる。 [準備・課題]今日の内容(第11章、12章)を振り返って理解を深める。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	乳幼児の食育について 四季を楽しむ、食文化を知る。食育の必要性について知り、園でどのような取り上げ方をすることが効果的か考える。季節を感じる行事食についてまとめる。 [準備・課題] 今日の内容（第13章）を振り返って理解を深める。（1h）
時間外での学修	自分自身も日常的な生活を振り返り、健康的な生活を実践していく具体的方法について考える意識を持ちましょう。実習で経験した子どもの基本的な生活習慣、安全への配慮、食育など「健康」の内容に関するについて振り返ってみましょう。また子どもの運動をする姿について、あなたなりのイメージを持ち、どんな支援が必要なのか考えてみましょう。
受講学生へのメッセージ	領域「健康」が大切にしていることは何か、実習を経験したからこそ考えることができるはずです。子どもが体を動かして遊ぶ楽しさをみなさんといっしょに考えてみたいと思います。 オフィスアワー：H204研究室毎週月曜16:20～17:00

【ES】保育内容の指導法(環境)		幼児教育学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	内藤 敦子					
資格・制限等	幼児・保育必修					
実務家教員	幼稚園教諭 40年					
授業内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「環境」を中心にして、幼児教育のねらい・内容・方法・活動等のあり方を理論と実践の両面から考えていきます。領域「環境」は周囲の様々な環境に、好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことをねらいとしています。そのことをふまえ、乳幼児期にふさわしい生活を通して、環境と関わる力が育つ保育の実現を目指します。					
授業方法	講義と演習を含めた授業展開で進めていきます。保育者としての資質を高めるために、体験と自分なりに考える力を重視した授業形態をとります。					
到達目標	知識・理解	自然や周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、自らの感性を磨く。			○	
	思考・判断・表現	理想の保育者像を常に描き、保育技術の研鑽に努める。			○	
	技能	幼稚園教育要領に於ける人的環境・物的環境の役割を理解し、一人一人の発達に応じた援助や環境構成をすることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	職業や社会生活で必要なコミュニケーション能力を身につけ、誰とでも幅広く柔軟に関わることができる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	<div>評価の観点</div> <div>評価方法</div>	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		20	-	-	-	20
		-	20	-	-	20
		-	-	30	-	30
		-	-	-	20	20
		-	-	-	10	10
	合 計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項						
テキスト	『保育・ネオシリーズ 保育内容・環境』同文書院(2,268円)ISBN:978-4-8103-1470-0					
参考書・教材	『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領』 フレーベル館 その他必要に応じて紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	領域「環境」の意義 ・保育所保育指針・幼稚園教育要領による保育の基本と保育内容の捉え方について学ぶ。 ・みずきの郷でフィールドビンゴを楽しむ。 [準備・課題]実習園の環境について次回発表できるようにまとめる。(1h)					
2	実習園の室内環境、室外環境 ・実習園の環境構成図を作成し、ねらいや保育内容から環境構成のあり方を話し合う。 ・飼育栽培活動について話し合う。(グループ活動) [準備・課題]学習した内容を復習する。(1h)					
3	子どもの発達と環境 ・子どもの遊びと環境とのかかわり及び個の発達・集団の発達と保育者の役割について学ぶ。 ・好きな野菜の種を蒔いて生長を観察する。 [準備・課題]学習した内容を復習する。(1h)					
4	シャボン玉遊びの実際(1) グループ学習 ・シャボン玉遊びに必要な材料、シャボン液の作り方を調べ次回の準備をする。 環境構成図を作成する。 [準備・課題]シャボン玉遊びの環境構成図を完成させる。(2h)					
5	シャボン玉遊びの実際(2) グループ学習 ・環境構成図に基づいて環境設定をし、シャボン玉遊びの展開について学ぶ。 [準備・課題]シャボン玉遊びをした反省、感想をまとめる。(1h)					
6	ストローひこうき遊びの実際 グループ学習 ・試行錯誤しながら、友だちとストローひこうき遊びが楽しめる環境構成を考える。 [準備・課題]ストローひこうき遊びをした環境構成図を作成する。(2h)					
7	子どもの発達と自然環境(1) ・自然環境へのかかわりを通して育つもの、季節感を感じる保育の展開について学ぶ。 ・野菜の生長を観察し、保育活動への活用の仕方を話し合う。 [準備・課題]学習した内容を復習する。(1h)					
8	子どもの発達と自然環境(2) ・自然環境へのかかわりを通して育つもの、季節感を感じる保育の展開について学ぶ。 ・野菜の収穫体験を通して、保育活動への活用の仕方を話し合う。 [準備・課題]学習した内容を復習する。(1h)					
9	自然物を使った遊びの実際(1) ・みずきの郷で木の実、草の実、落ち葉等を探し遊び方を考える。 [準備・課題]木の実や木の葉を使った作品を完成させる。(2h)					
10	自然物を使った遊びの実際(2) ・木の実、草の実、落ち葉等に他の材料を加えて遊びを発展させる。 [準備・課題]自然物を使った遊びについてまとめる。(2~4h)					
11	子どもの発達と園の環境 ・環境による教育の実践、園内環境の構成と課題について学ぶ。 ・実習園の園内環境についてグループで話し合う。 [準備・課題]グループで話し合ったことや学習したことをまとめる。(1h)					
12	人的環境としての友だち・保育者の役割 ・人的環境と子どもの育ち、子どもと保育者のかかわりについて学ぶ。 ・DVDを視聴し、保育者の役割についてグループで話し合う。 [準備・課題]学習した内容を復習する。(1h)					



内容	
実施回	授業内容・目標
13	<p>子どもの発達と物的環境の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的環境と物的環境の関係、園具、教具、素材の意義について学ぶ。</li> </ul> <p>[準備・課題]学習した内容を復習する。(1h)</p>
14	<p>好奇心、興味、関心を育てる環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の中で文字への関心や数量概念を育てる遊びについて学ぶ。</li> <li>・かるた・トランプ・すごろくなどの遊びを楽しむ。</li> </ul> <p>[準備・課題]学習した内容を復習する。(1h)</p>
15	<p>これからの幼児教育と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学性の芽生え(知的発達)を促す環境と援助について学ぶ。</li> <li>・お正月遊びを楽しむ(こま・けんだま・たこあげなど)</li> </ul> <p>[準備・課題]総合的なまとめの復習をする。(3～6h)</p>
時間外での学修	日頃から、周囲の子どもの姿、自然や季節の移り変わり等に関心を持ち、感性を磨きましょう。
受講学生へのメッセージ	<p>幼児にとって、保育者の環境に関わる姿、「感性」が大切になってきます。環境との関わりを通して、幼児の内面に何が育つのか、何を育てようとしているのか、保育者になったつもりでイメージしてください。オフィスアワーは内藤研究室で毎週木曜日の昼休みです。</p>

【ES】 保育内容の指導法(造形表現Ⅰ)		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	立崎 博則						
資格・制限等	幼児・保資必修						
実務家教員							
授業内容	造形表現の指導法について、子どもの発達段階について造形ワークショップを実施し段階的に学んでいく。また、発達段階を想定した課題制作を通して、必要な援助について主体的に確認していく。						
授業方法	造形ワークショップの体験と、課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。						
到達目標	知識・理解	幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、造形ワークショップを通して子どもの造形の発達段階に即した援助を行うための知識を身につける。			◎		
	思考・判断・表現	造形ワークショップでの制作の中で、自分の感じたことや考えたことを自分なりに表現し表現する楽しさを感じるとともに、子どもの表現をどう引き出すかについて思考することができる。			◎		
	技能	自らの造形表現の体験から具体的な指導場面を想定して、子どもの発達や目的に応じた活動とその指導・援助方法を構想する技能を身につける			◎		
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	創作作品		-	-	30	-	30
	レポート		30	-	-	-	30
	ポートフォリオ		-	30	-	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項							
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	子どもの作る・表現するを通して ・子ども達の豊かな感性と創造性について育む [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						
2	幼児の描画の発達段階 ・クロッキーをしよう ・子どもの絵を真似して描こう [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						
3	造形表現と発達段階 (4-7歳頃まで) ・ワークショップを通して考える [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						
4	造形表現と発達段階 (4-7歳頃まで) 造形表現と4-7歳頃までの発達段階 ・ワークショップの振り返り ・素材を研究する [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						
5	造形表現と発達段階 (4-7歳頃まで) ・年長児との制作 ・制作1 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						
6	造形表現と発達段階 (4-7歳頃まで) ・年長児との制作 ・制作2 (作品①の提出とレポート課題①について) [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						
7	造形表現と発達段階 (2-4歳頃まで) ・ワークショップを通して考える [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						
8	造形表現と発達段階 (2-4歳頃まで) 造形表現と2-4歳頃までの発達段階 ・ワークショップを振り返る ・見立て遊びについて [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						
9	造形表現と発達段階 (2-4歳頃まで) ・制作1 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	造形表現と発達段階（2-4歳頃まで） ・制作2 （作品②の提出とレポート課題②について） [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)
11	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・ワークショップ通して考える [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)
12	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） 造形表現と0-2歳頃までの発達段階 ・ワークショップを振り返る [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)
13	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・制作1 [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)
14	造形表現と発達段階（0-2歳頃まで） ・制作2 （作品③の提出とレポート課題③について） [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)
15	造形表現と発達段階 造形表現と7-12歳頃までの発達段階 ふりかえり [準備・課題]日頃より色や形に注目し、テレビ・雑誌・ネット等のメディアや、それに準ずるものを見て、記録する事(1`2h)
時間外での学修	・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。 ・定期的なおりがみ課題を実施します。練習いつでも披露できるよう準備してください。
受講学生へのメッセージ	子ども達の「好き」（豊かな感性）を一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日11:00-12:00です。

【EA】保育内容の指導法(造形表現Ⅱ)		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	立崎 博則						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員							
授業内容	造形表現の指導法について、様々な指導方法を造形ワークショップを実施し段階的に学んでいく。また、授業後半は、指導案を作成し、グループで模擬授業発表をすることにより、実践的な技能を身につけることを目指す。						
授業方法	造形ワークショップを体験しその学びをまとめる。また、指導案を作成し、グループで発表する。						
到達目標	知識・理解	幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、造形ワークショップを通して、造形活動の指導法についての知識を身につける。			○		
	思考・判断・表現	造形ワークショップでの制作の中で、自分の感じたことや考えたことを自分なりに表現し表現する楽しさを感じるとともに、造形活動の中で子ども達一人一人の表現をどう引き出すかについて思考することができる。			◎		
	技能	自らの造形表現の体験から具体的な指導場面を想定して、子ども達の発達や目的に応じた活動ふまえた指導案を作成することにより、指導・援助方法を技能を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし友達と共感し合うことにより、表現を楽しむことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	創作作品		-	-	15	-	15
	発表		-	-	30	-	30
	レポート		15	-	-	-	15
	ポートフォリオ		-	30	-	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
	合 計(点)		15	30	45	10	100
評価の特記事項	発表時に欠席のないよう体調管理してください。						
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	造形表現の指導方法 様々な指導形態 [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						
2	造形表現の指導方法 ワークショップを通して考える 保育者主導型の活動 [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						
3	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 保育者主導型の活動 [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						
4	造形表現の指導方法 ワークショップを通して考える 子ども自由型の活動 [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						
5	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 子ども自由型の活動 [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						
6	造形表現の指導方法 ワークショップを通して考える 保育者誘導型の活動 [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						
7	造形表現の指導方法 ワークショップの振り返り 保育者誘導型の活動 [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						
8	造形表現の指導方法 まとめ 指導案作成と模擬授業について [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						
9	指導案と模擬授業 造形遊びの設定1 指導案の作成 [準備・課題]道具、環境、アイディアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	指導案と模擬授業 造形遊びの設定2 指導案の作成 [準備・課題]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)
11	指導案と模擬授業 造形遊びの設定3 模擬授業の準備 [準備・課題]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)
12	指導案と模擬授業 造形遊びの設定4 模擬授業発表1 2グループ [準備・課題]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)
13	指導案と模擬授業 造形遊びの設定5 模擬授業発表 2グループ [準備・課題]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)
14	指導案と模擬授業 造形遊びの設定6 模擬授業発表 2グループ [準備・課題]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)
15	指導案と模擬授業 模擬授業のフィードバック レポート課題 [準備・課題]道具、環境、アイデアを整理しておくこと。また、制作した作品の発表・展示の仕方、保管についてなど制作した後についても考えるまとめること。(1~2h)
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。</li> <li>・定期的なおりがみ課題を実施します。練習いつでも披露できるよう準備してください。</li> </ul>
受講学生へのメッセージ	<p>子ども達の「好き」（豊かな感性）と一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、造形表現の指導法について向き合ってください。</p> <p>オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日11:00-12:00です。</p>

【ES】 保育内容の指導法(音楽表現)		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	光井 恵子・高木 彩也子						
資格・制限等	幼児必修						
実務家教員							
授業内容	子どもたちが全身で音楽を感じとり、自分なりに表現して楽しむ力をどのように育てるか、その指導法を授業を通してさまざまな角度から学習します。季節ごとの行事やボランティア活動でも積極的に関わられるよう、遊びの歌、わらべ歌、季節の歌等を多く取り入れ、グループ演習を中心に授業を進めていきます。学生自らが資質を高め、技能、技術を向上させて感性豊かな保育を展開させていけることがねらいです。						
授業方法	グループ演習を多く取り入れます。授業内容によって教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。						
到達目標	知識・理解	幼児教育における「表現」領域の意味と内容を理解できる。			○		
	思考・判断・表現	豊かな感性と創造性と養いながら、感じたことや考えたことを自分なりに表現し、仲間とのハーモニーを感じることができる。			○		
	技能	修得した技術で表現活動ができ、保育者としての指導力をもつことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表		-	20	30	-	50
	レポート		20	-	-	-	20
	受講態度		-	-	-	30	30
合 計(点)		20	20	30	30	100	
評価の特記事項	発表は4回行い、保育者に必要な技術を修得しているかを評価します。受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領、こどものうた100 必要に応じて資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	音で遊ぼう (1) [準備・課題] レポート課題①：身の周りの音さがし (1～2h)						
2	音で遊ぼう (2) レポート課題をもとにグループワーク・発表① [準備・課題] 発表の振り返りをまとめる (1～2h)						
3	合奏を楽しもう (1)3歳未満の合奏とは・・・ [準備・課題] レポート課題②：合奏譜の作成 (1～2h)						
4	合奏を楽しもう (2) レポート課題の確認、3歳以上での合奏とは・・・ [準備・課題] 合奏曲の譜読みと個人練習 (1～2h)						
5	発声法、歌を使った音楽遊び(1)：高木 [準備・課題] 発声練習の復習、歌詞とパート譜の復習 (1～2h)						
6	発声法、歌を使った音楽遊び(2)：高木 [準備・課題] 発声練習の復習、歌詞とパート譜の復習 (1～2h)						
7	ミュージックベルで楽しもう (1) 練習 [準備・課題] ミュージックベルの練習 (1～2h)						
8	ミュージックベルで楽しもう (2) 練習と発表② [準備・課題] 発表の振り返りをまとめる (1～2h)						
9	声のハーモニーを楽しもう (1) 合唱：高木 [準備・課題] 発声練習の復習と合唱のパート練習 (1～2h) )						
10	声のハーモニーを楽しもう (2) 合唱：高木 [準備・課題] 発声練習の復習と合唱のパート練習 (1～2h) )						
11	声のハーモニーを楽しもう (3) 合唱・発表③：高木 [準備・課題] 発声練習の復習 (1～2h)						
12	絵本（おおきなかぶ）とリズム遊びと合奏 (1) グループ分け、役割決め、パート練習 [準備・課題] グループ練習、合奏のパート練習 (1～2h)						
13	絵本（おおきなかぶ）とリズム遊びと合奏 (2) グループ練習、パート練習 [準備・課題] グループ練習、合奏のパート練習 (1～2h)						
14	絵本（おおきなかぶ）とリズム遊びと合奏と指導法 (3) グループ練習、パート練習 [準備・課題] 発表に向けての練習 (1～2h)						
15	発表④・反省とまとめ [準備・課題] レポート課題③ (1～2h)						
時間外での学修	毎回の授業内容をしっかり確認し、積極的に予習、復習に取り組んでください。質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。						
受講学生へのメッセージ	音楽をしっかり学び、その技能・技術を身につけることは、保育者として指導力に大きく関わります。毎回レベルアップした内容になりますので、常に体調を整えて遅刻、欠席しないように心がけましょう。オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週火曜日の16：20から17：30です。						

【ES】教育方法論		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	矢田貝 真一						
資格・制限等	幼児必修						
実務家教員	中学校教諭・20年						
授業内容	教育や保育の実践には、教育方法についての理論的・実践的な知識を理解することが不可欠です。一方、情報社会における生活環境の変化は、子供たちにも大きな影響を与えています。こうした状況のもとで、子供たちにこれからの社会を担っていくための資質や能力を育成するにはどのような教育の方法と技術が必要なのかを、情報機器や教材の活用も視野に入れながら、理解していきます。						
授業方法	講義を中心としますが、グループでの討議や発表も取り入れながら具体的な事例に即して進めます。知識を身につけるだけでなく、自分なりのとらえ方や考え方の形成をめざして展開していく予定です。						
到達目標	知識・理解	これからの社会を担う子供たちの資質や能力を育成するために必要となる教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識について、理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	教育の目的に適した指導技術と情報機器の活用や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な思考力、判断力、表現力などの能力を身につけることができる。			○		
	技能	教育の方法、指導や支援の技術、情報機器及び教材の活用に関連する基礎的な技能を身につけることができる。			○		
	関心・意欲・態度	教育・保育とその方法に興味や関心を持ち、自己の資質や能力の向上をめざして、積極的に学修に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	10	－	60
	レポート・発表		5	5	10	－	20
	自己評価		－	5	－	5	10
	受講態度		－	－	－	10	10
合 計(点)		45	20	20	15	100	
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修取組・発表・提出等の状況とします。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には規定により単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	『幼稚園教育要領』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府他、『保育所保育指針』厚生労働省、いずれも平成29年。『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府、『保育所保育指針解説』厚生労働省、いずれも平成30年。『小学校学習指導要領』文部科学省、平成29年。石垣恵美子・玉置哲淳編著『幼児教育方法論入門〔2版〕』建帛社。梅村匡史・小川哲也編著『保育者・教育者のための情報教育入門』同文書院。他に必要な資料は配付します。						

内容	
実施回	授業内容・目標
1	ガイダンス（この授業の目標と内容、教育の方法を学ぶ意義や学び方と心構えなどを理解する） [課題・準備] 「教育」ということについてこれまで学んだことを復習する(3~5h)
2	教育・保育の方法論(1)基礎理論と子供理解（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、教育方法に関する基礎理論について知識を深め、主体的・対話的・深い学びなど教育方法のあり方、子供理解の方法と具体的事例について理解する） [課題・準備] 学んだ内容に関連した幼稚園や保育所等における具体的な事例を調べてまとめる(3~5h)
3	教育・保育の方法論(2)構成要件と活動（保育を構成する基礎的な要件について知識を深め、園における活動と環境、環境構成の具体的方法について理解する） [課題・準備] 環境構成の具体的方法について、経験した事例に基づいてまとめる(3~5h)
4	教育・保育の方法論(3)評価と記録（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、育みたい資質・能力、子供理解に基づいた評価の意義と考え方、記録の方法と意義について知識を深めて理解する） [課題・準備] 幼稚園や保育所等の評価と小学校の評価について、考え方や方法などのちがいをまとめる(3~5h)
5	指導・支援のスキル(1)説明・提示・発問・指示（教育・保育における話法や板書などの基礎となる技術、必要となる技能や留意する事項を理解してその基本を身につけ、具体的な活用事例について活用できるようにする） [課題・準備] 学んだ内容をもとに具体的な事例を発表できるように復習する(2~4h)
6	指導・支援のスキル(2)教育メディアの活用と指導案の作成（教育メディアの意義と内容、園での指導技術の実際、基礎的な学習指導理論と教育メディアを踏まえた指導案の作成について知識を深めて理解し、活用できるようにする） [課題・準備] 教育メディアを活用した具体的な事例について調べてまとめる・前半の学修内容を振り返ってまとめる(4~6h)
7	中間のまとめ（授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、これまで学んだ内容をまとめ、必要に応じて発表する） [課題・準備] 発表したまとめの内容を見直して、不十分なところを復習する(3~5h)
8	指導援助の方法(1)人間関係（人間関係の重要性、人間関係づくりの指導・支援について知識を深めて理解し、具体的事例について考える） [課題・準備] 授業の中で示された人間関係に関する事例について復習し、自分なりの気づきやとらえ方をまとめる(3~5h)
9	指導援助の方法(2)豊かな遊び（遊びの重要性、遊びの環境設定と指導・支援について知識を深めて理解し、具体的事例について考える） [課題・準備] 授業の中で示された事例について復習し、自分なりの気づきやとらえ方をまとめる(3~5h)
10	指導援助の方法(3)生活感覚（子供の園での生活とそのとらえ方、生活に関する指導・支援について理解を深めて理解し、具体的事例について考える） [課題・準備] 授業の中で示された事例について復習し、自分なりのとらえ方や考え方をまとめる(3~5h)
11	指導援助の方法(4)関係・遊び・生活の事例から（これまで考えてきた課題も活用し出し合いながら、指導援助の総合的な事例研究に取り組み、子供のとらえ方の習得と観察力の育成を図る） [課題・準備] 発表に向けて、自分なりのとらえ方や具体的な支援方法などについて考えを総合的にまとめる(4~6h)

内容	
実施回	授業内容・目標
12	指導援助の方法(5)課題の発表 (これまでの学びや授業外の課題で考えてきたことなどをいかしながら、総合的にとらえてまとめ、指導援助の具体的な方法について発表できる) [課題・準備] 発表された内容をそれぞれまとめ、観点を理解しながら評価する(3～5h)
13	新しいメディアと教育・保育(1)情報社会と教育 (情報社会の現状、コンピュータと保育、情報機器を活用した効果的な教材等の作成と提示などについて知識を深めて理解する) [課題・準備] 情報環境の変化と教育者・保育者に求められる資質についてまとめる(2～4h)
14	新しいメディアと教育・保育(2)情報社会と保育者 (授業外の課題で調べてきた課題も活用しながら、園での情報機器の活用方法、保育者に求められる活用能力、情報活用能力を子供に育成するための指導などについて理解を深める) [課題・準備] 授業に関連した課題について自分なりの意見をまとめる(2～4h)
15	レポートの発表と全体のまとめ (調べてきたこれまでの課題も活用しながら、教育方法に関連した課題についてグループなどでまとめ、発表できるようにする) [課題・準備] 配付資料に基づいて授業全体を振り返り、確実に復習する(4～6h)
時間外での学修	[課題・準備]は、授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので、( )の標準学修時間をめどにして確実に学修しましょう。
受講学生へのメッセージ	講義を聴くだけでなく、実習の成果も積極的に生かしながら自分の考えも発表して理解を深めてください。オフィスアワーはA305(A号館3F)で毎週木曜日の16:00から17:00です。質問等があれば、どうぞ。



【ES】障がい児保育Ⅱ		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	上杉 晴美						
資格・制限等	保育必修						
実務家教員	「幼稚園教諭23年」「ことばの教室14年」						
授業内容	障がい児保育Ⅱは障がい児保育Ⅰでの学びをふまえ、レポートにまとめたり発表したりすることを通して、障がい理解についてさらに深めるとともに、保育場面での具体的な支援を考えます。						
授業方法	講義と演習。調べたことをまとめ、発表する活動や小テストなども含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	障がいについての基礎的な知識を学ぶ。			◎		
	思考・判断・表現	障がい特性や支援についてまとめたり、発表したりする事ができる。			◎		
	技能	積極的に資料を調べ、まとめる事ができる。			○		
	関心・意欲・態度	積極的に資料を調べ、まとめる事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	10	10	-	30
	小テスト		20	-	-	-	20
	レポート・課題提出・発表		-	15	15	-	30
	受講態度		-	5	-	15	20
合 計(点)		30	30	25	15	100	
評価の特記事項	小テストは、中間の授業内で行います。受講態度は、学修への取り組み状況、ワークシートや提出物の状況などから総合的に評価します。欠席は原則とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	藤永 保他：『障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して（第2版）』萌文書林 尾崎康子他：『よくわかる障害児保育』ミネルヴァ書房 保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育保育要領						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	講義のオリエンテーション（この講義で大切にしたいこと、授業の進め方、学習評価等について） 「障がい」について考える。 〔準備と課題〕 障害児保育Ⅰのテキストを振り返り、学修した内容を復習をしておきましょう。（1h-2h）						
2	障がい児保育をささえる理念 幼稚園や保育所での障がいをもつ子への指導上の留意点について考える。 〔準備と課題〕 幼稚園教育要領や保育所保育指針から障害を持つ子への留意点を確認しておきましょう。（1-2h）						
3	障がい児保育の基本 乳幼児期の発達と障がい児保育の基本について学ぶ 〔準備と課題〕 幼稚園教育要領や保育所保育指針等を参考に、乳幼児期の発達について確認しておきましょう。（1-2h）						
4	障がいの理解と保育における支援(1) 聴覚障がい児の理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
5	障がいの理解と保育における支援(2) 視覚障がい児の理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
6	障がいの理解と保育における支援(3) 肢体不自由児の理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
7	障がいの理解と保育における支援(4) 知的障がい児の理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
8	障がいの理解と保育における支援(5) 発達障がいについて学ぶ。学習障がいの理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
9	障がいの理解と保育における支援(6) 自閉症の子どもの理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
10	障がいの理解と保育における支援(7) 注意欠如・多動性障がいの子どもの理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
11	障がいの理解と保育における支援(8) 発達性協調運動障害、不器用の子どもの理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
12	障がいの理解と保育における支援(9) 言語障がい（構音障がい、吃音を含む）の理解と支援について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に障害特性について、調べておきましょう。（1-2h）						
13	家庭や関係機関との連携(1) 保護者や家族に対する理解と支援の方法について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に保護者・家族支援について、調べておきましょう。（1-2h）						
14	家庭や関係機関との連携(2) 小学校との連携について学ぶ。 〔準備と課題〕 資料や参考書等を元に小学校との連携について、調べておきましょう。（1-2h）						
15	まとめ 支援の広がりにつながりについて、市町の発達支援システムについて学ぶ。 保育者として“子どもの世界を理解しようとする”について考える。 〔準備と課題〕 今までの資料を整理しておきましょう。（1-2h）						
時間外での学修	事前に資料や参考書を読み、自分なりの考えをまとめておきましょう。 保育場面での子どもとの関わりをイメージしてみましょう。また、調べたことをまとめて発表する活動では、事前に自分自身がわかって説明できるようにしておきましょう。						
受講学生へのメッセージ	資料や参考書に目を通して授業に臨むようにして下さい。また、参考となる本や雑誌などを進んで読むようにしましょう。また、実際の保育の場で、子ども達とどのように関わるのかイメージしてみましょう。オフィスアワーは、講義後教室にて行います。						

【ES】社会的養護内容		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	保資必修						
実務家教員	学校教員20年						
授業内容	児童への虐待問題が深刻化しています。その原因として、少子高齢、景気の低迷、社会不安など、子どもを取り巻く環境が大きく変化していることがあげられます。授業では、今一度、子どもの権利や児童虐待について考え、社会的養護の制度や内容を理解し、根拠に基づいたケース（事例）の理解と援助の方法を、より踏み込んで学びます。						
授業方法	講義形式 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。						
到達目標	知識・理解	ケース（事例）を通じて、アセスメントについての深い知識を持ち、現状と課題を理解して説明ができる。			◎		
	思考・判断・表現	保育者として様々な価値観に対応できる柔軟さを身につけることができる。			○		
	技能	保育者として児童に対して有効な手だてを講ずるためのアセスメント力を高める。			◎		
	関心・意欲・態度	関係機関との連携を通じて、様々な考えや意見をまとめることができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	－	60
	発表・レポート		－	5	10	5	20
	自己評価		5	－	5	－	10
	受講態度		－	－	－	10	10
	合 計(点)		35	15	35	15	100
評価の特記事項	3分1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。						
テキスト	授業時にプリントを配布します。						
参考書・教材	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 辰己隆・岡本真幸『保育士をめざす人の社会的養護内容』みらい／小池由佳・山縣文治『社会的養護』ミネルヴァ書房／増沢高『社会的養護児童のアセスメント』明石書店／その他 授業時に適宜紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：進め方、評価方法などの説明。授業の概要を知る 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
2	子どもの権利について：人権としての権利 子どもの権利における大人の役割について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
3	社会的養護の概要：社会的養護の必要性・専門性を学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
4	児童養護問題および政策の特徴：多様化する児童養護施設の取り組みから学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
5	里親制度の現状と課題：里親とは 里親になるには 里親制度の課題等を学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
6	新しい施設養護の理念： 児童福祉施設を取り巻く新しい理念 権利擁護につながる第三者評価事業の導入等について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
7	社会的養護児童のアセスメント(1)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
8	社会的養護児童のアセスメント(2)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
9	社会的養護児童のアセスメント(3)： 事例検討を通じて問題を整理し、有効な手だてを導くためのアセスメントをおこなう 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						
10	施設養護のプロセスの理解： 入所前後の援助 施設内のケア（インケア） 退所前後のケア内容等について学ぶ 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	<p>障害児入所施設における基本的な援助・支援：障害をもつ人とノーマライゼーションについて 日常生活援助 余暇活動 療育援助・支援等について学ぶ 討論、発表を通じて問題亜解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)</p>
12	<p>こころの援助(1)： こころの援助とは 施設養護におけるこころの援助 子どもとのコミュニケーション等について学ぶ 討論、発表を通じて問題亜解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)</p>
13	<p>こころの援助(2)： こころの援助とは 施設養護におけるこころの援助 子どもとのコミュニケーション等について学ぶ 討論、発表を通じて問題亜解決型の学修を目指す課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)</p>
14	<p>親子関係の援助：親子関係の援助の姿勢 親子関係の調整における保育士の役割等について学ぶ 討論、発表を通じて問題亜解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)</p>
15	<p>児童福祉施設における保育士の資質と論理： 児童福祉施設で働くということ 援助としての資質を知る パーンアウトを防ぐために等を学ぶ 討論、発表を通じて問題亜解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料をもとに復習し、必ず、関連する文献に触れること(2h)</p>
時間外での学修	<p>参考書・教材等で紹介した著書等を中心に図書館等で関連図書を熟読してください。 また、実際に施設の行事等にボランティアとして参加し、見識を深めてほしいと思います。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>日ごろから、各自治体の広報等の情報を収集し、関連する行事やフェスティバル等に積極的に参加をし、当事者の視点にたつて視野を広げてほしいと思います。 オフィスアワーは、H号館H207号室 木曜日16時10分からです。</p>

【ES】 保育指導計画の方法		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	名和 孝浩						
資格・制限等	幼免・保資必修						
実務家教員	保育所保育士・9年						
授業内容	保育における指導計画の考え方・立て方について理解する。実際の指導計画の作成を通して、子どもの実態を捉え、子どもの生活に見通しをもち、保護者に信頼し安心してもらうことを実現するための、保育の方向性を明確にする。						
授業方法	指導計画作成から評価までの基礎知識についての講義を基にして、実際に指導計画の作成に取り組む。						
到達目標	知識・理解	保育者としての基礎的知識を身につけ、子どもの活動を予想し、それにふさわしい援助を考えた指導計画の作成ができる。			◎		
	思考・判断・表現	子どもの姿から実態を把握し、遊びや生活へとつなげることができる。			○		
	技能	子どもの動きをとらえ、遊び場や環境の構成、援助を行うために必要となる保育技術の習得をする。			○		
	関心・意欲・態度	子どもを取り巻く環境や子どもの人権などに関心をもちながら、自己の実践を振り返り、保育実践力を磨くことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		30	20	20	-	70
	受講態度		-	-	-	30	30
	合 計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項	レポートは授業内で作成した指導計画などを基に評価をします。受講態度は、学修への取組状況、グループワークや発表などから総合的に評価します。						
テキスト	『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』久富 陽子 萌文書林(1,994円)ISBN:978-4893472489						
参考書・教材	厚生労働省/著『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省/著『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府/著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション・保育の展開における指導計画と役割 〔準備・課題〕自身がこれまで作成した指導計画の振り返り (2h～4h)						
2	乳幼児の発達と指導計画との関連 〔準備・課題〕園での指導計画と保育実践例の収集 (2h～4h)						
3	乳幼児の遊びと指導計画 (課題として収集した保育実践の確認を行う) 〔準備・課題〕園での指導計画と保育実践例の収集 (2h～4h)						
4	短期・長期の指導計画の意義とつながり 〔準備・課題〕指導計画にどのような種類があるか事前に学習しておく (2h～4h)						
5	個別の指導計画について 〔準備・課題〕個別の配慮が必要となる子どもの指導計画について調べる (2h～4h)						
6	指導計画の考え方と方法 〔準備・課題〕自身がこれまで作成した指導計画をまとめ、具体的な課題を振り返る (2h～4h)						
7	園での実践を踏まえた遊びの考案 〔準備・課題〕園で行われている具体的な遊びの収集 (2h～4h)						
8	指導計画 (部分) の作成 (準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔準備・課題〕指導計画の作成に必要な資料を収集・準備する (3h～4h)						
9	振り返りを基にした指導計画の再考 〔準備・課題〕指導計画の再構成に必要な資料を収集・準備する (2h～4h)						
10	個別の指導計画の作成 (準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔準備・課題〕個別の配慮や援助が必要となる子どもの保育におけるねらいや内容を調べる (3h～4h)						
11	指導計画 (日案) の作成 (準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔準備・課題〕1日の保育の流れを調べ、要点をまとめる (2h～4h)						
12	週の指導計画の作成 (準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔準備・課題〕1週間の保育の流れを調べ、要点をまとめる (2h～4h)						
13	年間指導計画の作成 (準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔準備・課題〕乳幼児期の各クラスの1年間の様子や発達について調べる (2h～4h)						
14	行事における指導計画の作成 (準備した資料を基に指導計画を作成する) 〔準備・課題〕園で行われる行事を調べ、まとめる (2h～4h)						
15	まとめ 〔準備・課題〕保育実践に役立つ指導計画とはどのようなものかまとめる (2h～4h)						
時間外での学修	実習先や普段の生活場面から、指導計画についての情報を積極的に得られるようにすること。						
受講学生へのメッセージ	よりよい保育を実践するために、指導計画の作成はとても大切です。この授業では文章を書くことが多いですが、その先に保育者としての自己の育ちと、現場に出てからの子どもの育ちが待っていることを励みに取り組んでいきましょう。疑問や授業に対する意見などはオフィスアワー (名和研究室、金曜日12:00～13:00) を活用してください。						

【ES】 応用音楽Ⅰ		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	光井 恵子・春日 有貴江・竹内 美樹・日比 裕美子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	童謡を中心にピアノの弾き歌いレッスンを行います。たくさんの曲を知り、様々な調性での伴奏づけを学ぶことを目的とします。保育現場での即戦力となるよう積極的に学ぶ姿勢を大切にして、保育現場で役立つ実力をしっかり身に付け、音楽力や感性を培います。						
授業方法	授業の前半はクラス授業を行い、後半は各自の個人レッスンとなります。 グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。						
到達目標	知識・理解	子どもの歌を理解し、簡易伴奏法を知る			○		
	思考・判断・表現	さまざまな音楽ジャンルの子どもの歌に触れ、表現することができる			△		
	技能	子どもの歌を簡易伴奏法によって弾き歌いすることができる			◎		
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	確認テスト・実技試験		10	10	20	-	40
	達成度		15	-	15	-	30
	受講態度		-	-	-	30	30
合 計(点)		25	10	35	30	100	
評価の特記事項	2回の確認テスト・実技試験、受講態度等で評価をします。 3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『こどものうた100』小林美実監修 井戸秀和編 チャイルド本社ISBN:9784805481868						
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 子どもの歌を知る（春の歌①）、ハ長調の伴奏づけの理解 〔準備・課題〕ハ長調で「ちょうちょ」の楽譜作成、レッスン曲の練習（1～2h）						
2	子どもの歌を知る（春の歌②）、ハ長調の伴奏づけの復習 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
3	子どもの歌を知る（春の歌③）、ニ長調の伴奏づけの理解 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕ニ長調で「ちょうちょ」の楽譜作成、レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
4	子どもの歌を知る（夏の歌①）、ニ長調の伴奏づけの復習 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
5	子どもの歌を知る（夏の歌②）、ハ長調の伴奏づけの理解 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕ハ長調で「ちょうちょ」の楽譜作成、レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
6	子どもの歌を知る（夏の歌③）、ハ長調の伴奏づけの復習 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
7	子どもの歌を知る（秋の歌①）、ト長調の伴奏づけの理解 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕ト長調で「ちょうちょ」の楽譜作成、レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
8	子どもの歌を知る（秋の歌②）、ト長調の伴奏づけの復習 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
9	子どもの歌を知る（秋の歌③）、ハ・ニ長調の伴奏づけの復習 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
10	春・夏・秋の歌の伴奏付けの確認テスト、ハ・ト長調の伴奏づけの復習 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
11	春・夏・秋の歌の伴奏付けの確認テスト、ハ・ニ・ハ・ト長調の伴奏づけの復習 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
12	ハ・ニ・ハ・ト長調の伴奏づけの確認テスト「ちょうちょ」 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
13	ハ・ニ・ハ・ト長調の伴奏づけの確認テスト「ちょうちょ」 各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
14	試験曲のレッスン① グループ発表会を行い、相互評価しあう 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
15	試験曲のレッスン② 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習と試験曲の練習（2～3h）						

時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身に付けていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻、欠席をしないように心がけましょう。オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週火曜日16：20から17：30です。

【ES】 応用音楽Ⅱ		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	光井 恵子・春日 有貴江・加藤 有子・竹内 美樹・日比 裕美子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	リズム演習として和太鼓を中心に各種リズム楽器や簡易楽器を活用し、音楽の基礎リズムを確実に身につけます。前期での学びを土台として、伴奏、歌唱、弾き歌い、初見視奏等の技能、技術を高め、表現力を身に付けていきます。						
授業方法	二つのグループに分け、リズム演習と弾き歌いのレッスンを毎時交替しながら行います。グループ毎に教室が異なりますので、しっかり確認して受講してください。						
到達目標	知識・理解	簡易楽器を活用して音楽の基礎リズムを理解する。曲にあった伴奏方法を理解する。			○		
	思考・判断・表現	様々な音楽ジャンルの子どもの歌に触れ表現し、現場での即戦力となるよう努める。			○		
	技能	子どもの歌に合わせた様々な伴奏や弾き歌いをすることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら豊かな感性をもち、積極的に課題に取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表		－	10	10	－	20
	実技試験		－	10	10	－	20
	達成度		15	－	15	－	30
	受講態度		－	－	－	30	30
合 計(点)		15	20	35	30	100	
評価の特記事項	発表（リズム演習）、実技試験（弾き歌い）、受講態度等で評価します。受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況になります。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『こどものうた100』小林美実 監修 井戸秀和 編 チャイルド本社ISBN:9784805481868						
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	リズム演習：和太鼓についての説明とグループ分け 〔準備・課題〕学習した内容の復習と和太鼓の歴史を調べる 弾き歌い：前期習得した伴奏付けの復習 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
2	リズム演習：リズム基礎練習（1） 四分音符、四分休符を用いて 〔準備・課題〕学習した内容の復習（正確に基礎リズムを修得する） 弾き歌い：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
3	リズム演習：リズム基礎練習（2）八分音符、八分休符を用いて 〔準備・課題〕学習した内容の復習（正確に基礎リズムを修得する） 弾き歌い：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
4	リズム演習：リズム基礎練習（3） 十六分音符を用いて 〔準備・課題〕学習した内容の復習（正確に基礎リズムを修得する） 弾き歌い：秋の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
5	リズム演習：リズム基礎練習（4） 付点音符を用いて 〔準備・課題〕学習した内容の復習（正確に基礎リズムを修得する） 弾き歌い：変ロ長調の伴奏付けを理解する。 〔準備・課題〕変ロ長調で「ちょうちょ」の楽譜作成、レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
6	リズム演習：リズム基礎練習（5） シンコペーションのリズムを用いて 〔準備・課題〕学習した内容の復習（正確に基礎リズムを修得する） 弾き歌い：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
7	リズム演習：リズム基礎練習（6） さまざまなリズムパターンを用いて 〔準備・課題〕学習した内容の復習（正確に基礎リズムを修得する） 弾き歌い：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
8	リズム演習：和太鼓オリジナル曲の練習（1） 譜読み 〔準備・課題〕学習した内容の復習とオリジナル曲のリズム練習 弾き歌い：冬の歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン 〔準備・課題〕レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						
9	リズム演習：和太鼓オリジナル曲の練習（2） 打ち込み 〔準備・課題〕学習した内容の復習とオリジナル曲の打ち込み 弾き歌い：修得した伴奏付けの復習と確認 〔準備・課題〕コードの復習、レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	リズム演習：和太鼓オリジナル曲（3）打ち込み [準備・課題] 学習した内容の復習とオリジナル曲の打ち込み 弾き歌い：さまざまなジャンルの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [準備・課題] レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）
11	リズム演習：和太鼓オリジナル曲（4）課題の確認、イベントに向けて打ち込み [準備・課題] 学習した内容の復習とオリジナル曲の暗譜 弾き歌い：さまざまなジャンルの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [準備・課題] レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）
12	リズム演習：和太鼓オリジナル曲（5）イベントに向けて打ち込み [準備・課題] 学習した内容の復習とオリジナル曲の確実な暗譜（2～3h） 弾き歌い：さまざまなジャンルの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [準備・課題] レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（3h）
13	リズム演習：和太鼓オリジナル曲（6）イベントに向けて仕上げ グループ発表 [準備・課題] 学習した内容の復習とオリジナル曲の確実な暗譜と表現力 弾き歌い：さまざまなジャンルの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [準備・課題] コードの復習、レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習（1～2h）
14	リズム演習：盆踊りで活用できる和太鼓基礎練習 [準備・課題] 学習した内容の復習とさまざまな盆踊りの曲を聴く 弾き歌い：さまざまなジャンルの歌から選曲し、各自のレベルに合わせた弾き歌いの個人レッスン [準備・課題] レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習（1～2h）
15	リズム演習：盆踊りで活用できる和太鼓練習（盆踊りの曲に合わせて）と後期の仕上げ [準備・課題] 学習した内容の復習と簡単なリズムの創作 弾き歌い：グループ発表会を行い、相互評価しあう [準備・課題] レッスンした内容の復習とレッスン曲の予習、試験曲の練習（2～3h）
時間外での学修	保育者として子どもたちを指導するために必要な音楽の基礎力を身につけていきますので、毎日練習を行い、積極的に予習、復習に取り組み、弾き歌いできるレパートリー曲を増やしてください。 質問等があれば、研究室（A307：A号館3F）へきてください。
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて、遅刻、欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは研究室（A307：A号館3F）で毎週火曜日16：20から17：30です。



【ES】 幼児の運動と遊びⅠ		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	中野 由香里						
資格・制限等	幼免選択必修・保資必修						
実務家教員							
授業内容	子どもの成長に合った運動や運動遊び学修します。子どもたちが主体的・積極的に取り組めるように配慮し、子どもの基本運動能力が養われるように導くため、基礎技能の修得や援助方法を学び、現場で活かせるよう技術を身につけます。						
授業方法	グループ活動の中で協力し合いながら、各テーマに沿って実施します。						
到達目標	知識・理解	幼児の発育発達について理解し、基本運動を修得する。			○		
	思考・判断・表現	幼児の基本運動能力が養われるように援助する技術・技能を高めることができ			◎		
	技能	保育者と幼児の両方を演じながら受講することができ、豊かな感性をもち実践に活かすことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	幼児の運動遊びを十分に体験し、活動の中で仲間と協力することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	受講態度		15	－	－	15	30
	レポート		－	15	－	－	15
	自己評価		－	15	－	－	15
	発表		－	－	20	－	20
	課題提出		－	－	20	－	20
	合 計(点)		15	30	40	15	100
評価の特記事項	受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。レポート、自己評価は出席カードに記入する内容を基に評価します。発表は、サーキット運動あそびの発表内容を評価します。課題提出は、ノートの内容を評価します。欠席は活動内容が不足しているとして、減点の対象とします。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	幼稚園教育要領具解説、保育所保育指針、幼児体育、必要に応じて資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション（授業内容の説明） 〔準備・課題〕 授業内容を把握し、計画を立てる。（1h～2h）						
2	マット運動あそびⅠ（基本の遊び） 〔準備・課題〕 幼児の運動について理解し、ノートにまとめる。（1h～2h）						
3	マット運動遊びⅡ（段階指導） 〔準備・課題〕 マット運動の指導について理解し、補助の仕方をノートにまとめる。（1h～2h）						
4	鉄棒運動遊びⅠ（基本の遊び） 〔準備・課題〕 鉄棒の握り方を覚え、ノートにまとめる。（1h～2h）						
5	鉄棒運動遊びⅡ（段階指導） 〔準備・課題〕 鉄棒の指導について理解し、補助の仕方をノートにまとめる。（1h～2h）						
6	平均台運動遊びⅠ（基本の遊び） 〔準備・課題〕 平均台運動について理解し、ノートにまとめる。（1h～2h）						
7	平均台運動遊びⅡ（段階指導） 〔準備・課題〕 平均台の指導について理解し、補助の仕方や遊びの工夫を試案する。（1h～2h）						
8	サーキット運動遊びⅠ（基本の遊び）、小テスト（補助の仕方について） 〔準備・課題〕 サーキットについて理解し、ノートにまとめる。（1h～2h）						
9	サーキット運動遊びⅡ（ノートにまとめたものを基に、発展、発表準備） 〔準備・課題〕 これまでに行った運動遊びの中から工夫し、発表に向けて準備する。（1h～2h）						
10	サーキット運動遊びⅢ（発表） 〔準備・課題〕 発表を振り返り、ノートにまとめる。（1h～2h）						
11	水遊びⅠ（道具の制作・準備）、ノート(課題)の確認 〔準備・課題〕 水遊びについて理解し、ノートにまとめる。（1h～2h）						
12	水遊びⅡ（道具の制作） 〔準備・課題〕：道具の制作過程をノートにまとめる。（1h～2h）						
13	水遊びⅢ（仮設プールの準備） 〔準備・課題〕 仮設プールの設営方法を理解し、ノートにまとめる。（1h～2h）						
14	水遊びⅣ（仮設プールの設営、実践、片付け） 〔準備・課題〕 水遊びの指導案を作成し、課題提出に向けて準備する。（1h～2h）						
15	まとめ（総まとめ） 〔準備・課題〕 これまでの学びをノートにまとめ、現場実習等で活かす。（1h～2h）						
時間外での学修	体調管理に気を配り、毎時間の準備物等の確認をしてください。発表に向けての準備を十分に行ってください。						
受講学生へのメッセージ	保育者ということを念頭に置き、自分らしさを素直に表現できるよう全ての授業を積極的に受講してください。運動のできる服装と体育館シューズを必ず着用すること。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館）で毎週金曜日の12：15～12：45です。						

【ES】 幼児の運動と遊びⅡ		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	中野 由香里						
資格・制限等	幼免選択必修・保資必修						
実務家教員							
授業内容	子どもたちが主体的・積極的に取り組めるように配慮し、子どもたちの基本運動能力が養われるように導くため、基礎技能の修得や援助方法を学び、現場で活かせる技術を身につけます。また、手具を用いたリズム運動の発表を行い、発表に到るまでの過程において工夫することや発想力を向上させることをねらいとします。						
授業方法	グループでの活動を中心に、発表に向けての準備や構想を思索し実施します。						
到達目標	知識・理解	幼児の基本運動能力が養われるように的確に援助することができる。			○		
	思考・判断・表現	各種目において、保育者として感性豊かに運動あそびを工夫することができる。			◎		
	技能	保育者と幼児の両方を演じながら受講することができ、豊かな感性をもち実践に活かすことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	幼児の運動遊びを十分に体験し、発表に向けて活動する中で仲間と協力することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	受講態度		15	-	-	15	30
	レポート		-	15	-	-	15
	自己評価		-	15	-	-	15
	発表		-	-	40	-	40
	合 計(点)		15	30	40	15	100
評価の特記事項	受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。レポート、自己評価は出席カードに記入する内容を基に評価します。発表は、各種目の発表内容を評価します(4回)。欠席は活動内容が不足しているとして、減点の対象とします。3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	幼稚園教育要領具解説、保育所保育指針、幼児体育、必要に応じて資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション(授業内容の説明) [準備・課題] 授業内容を把握し、計画を立てる。(1h~2h)						
2	リズム体操 [準備・課題] 授業で行ったリズム体操をノートにまとめる。(1h~2h)						
3	ボール運動遊び [準備・課題] ボール運動遊びについて理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
4	ボール・リズム運動Ⅰ(創作) [準備・課題] 創作内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
5	ボール・リズム運動Ⅱ(ノートにまとめた内容を基に仕上げ・発表) [準備・課題] 発表を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
6	リボン・リズム運動Ⅰ(基本の動き) [準備・課題] リボンリズム運動について理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
7	リボン・リズム運動Ⅱ(創作) [準備・課題] 創作内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
8	リボン・リズム運動Ⅲ(ノートにまとめた内容を基に仕上げ・発表) [準備・課題] 発表を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
9	なわ運動遊び(基本の動き) [準備・課題] なわについて理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
10	なわ・リズム運動Ⅰ(創作) [準備・課題] 創作内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
11	なわ・リズム運動Ⅱ(ノートにまとめた内容を基に仕上げ・発表) [準備・課題] 発表を振り返り、ノートにまとめる。(1h~2h)						
12	バルーン運動遊び(基本の形)、ノート(課題)の確認 [準備・課題] バルーンについて理解し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
13	バルーン・リズム運動Ⅰ(創作・仕上げ) [準備・課題] 創作内容をノートにまとめる。(1h~2h)						
14	バルーン・リズム運動Ⅱ(ノートにまとめた内容を基に構成確認) [準備・課題] 構成を最終確認し、ノートにまとめる。(1h~2h)						
15	バルーン・リズム運動Ⅲ(発表) [準備・課題] これまでの発表の内容をノートにまとめ、現場実習等で活かす。(1h~2h)						
時間外での学修	発表に向けた準備や練習を十分に行ってください。						
受講学生へのメッセージ	保育者ということを念頭に置き、自分らしさを素直に表現できるよう全ての授業を積極的に受講してください。 オフィスアワーは研究室(H203:H号館)で毎週金曜日の12:15~12:45です。						

【ES】教職演習		幼児教育学科		2年通年			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	内藤 敦子・名和 孝浩						
資格・制限等	幼免必修						
実務家教員	内藤：幼稚園教諭・40年、名和：保育所保育士9年						
授業内容	実習に先立ち、教育実習の意義と役割を理解し、幼稚園教諭として必要な知識技能を高めるために、幼児教育の実践に向けて次の内容について考察する。(1)必要な教職教養について整理する。(2)教育実習の意義と目的、幼稚園の現状と課題について学ぶ。(3)幼稚園教育要領に基づいた指導の実践について学ぶ。						
授業方法	講義と演習、実技指導等を含めた授業展開で進めていく。保育者としての資質を高めるために、自分なりに考える場面を重視した指導形態をとる。						
到達目標	知識・理解	保育実習の意義と目的を理解し、幼稚園の現状と課題について学びを深めることができる。			○		
	思考・判断・表現	豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者像を常に描き、研鑽に努めることができる。			○		
	技能	幼稚園教育要領に基づいた指導の実践について学び、保育実践力を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	教育実習に向けて保育技術の向上を図ると共に、必要な書類の作成が出来る。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		20	20	－	－	40
	実技試験		－	－	30	－	30
	受講態度		－	－	－	30	30
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『文部科学省 幼稚園教育要領解説』フレーベル館(259円) ISBN:978-4577814475 『幼稚園・保育所・こども園実習パーフェクトガイド』わかば社(1,512円) ISBN:978-4907270193 1年次購入済み						
参考書・教材	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領 フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：幼稚園実習の意義、目的、内容の理解をする。 [課題] 1年次のテキストを熟読しておくこと。(1H)						
2	幼稚園の一日の生活の流れと保育内容の理解：幼稚園と保育所・認定子ども園の違いを理解する。 [課題] 幼稚園・保育所の違いをレポートにまとめる。(2H)						
3	幼稚園・保育所の違いを確認する。 幼児の年齢、季節に適した絵本を調べる。：図書館にて絵本リスト（9月実習分）を作成する。 [課題] 絵本リストの作成（2月実習分）(2H)						
4	幼児の年齢、季節に適した自然遊びを調べる。：学内を探索して自然遊びの教材研究をする。 [課題] 「自然遊び絵本」を各自作成する。(2H)						
5	指導の実践（1）：幼児の心をつかむ自己紹介の仕方を学ぶ。 [課題] 自己紹介絵本を各自作成し、次回の発表練習をする。(2H)						
6	指導の実践（2）：自己紹介絵本を使って幼児の心に寄り添う話し方のポイントをつかんで 発表 をする [課題] 他の人の発表を見て、学んだことを記録しておく。(1H)						
7	指導の実践（3）：日常生活への援助の仕方を学ぶ（朝の出迎え、お帰りの仕方等） [課題] 他の人の発表を見て、学んだことを記録しておく。(2H)						
8	幼児理解：幼児の発達の理解と内面理解について学ぶ [課題] 参考資料学んだことを、次回、話し合いができるように各自まとめておく。(2H)						
9	指導案作成のポイントを理解し、身上書の書き方、実習園でのオリエンテーションの受け方等を身につける。 [課題] 身上書の下書きを作成する。(1H)						
10	身上書の清書をする。 「指導案」に基づいて部分実習をするということについて学ぶ。 [課題] 指導案に基づいて授業ができる準備をする。(2H)						
11	季節や年齢に応じた指導案の作成について学ぶ。 [課題] 9月実習に向けて指導案を作成する(1H)						
12	実習日誌の書き方と記録のポイント（1）：1日流れの記録、事例・エピソード・考察等の書き方を学ぶ [課題] 1日の流れの記録の復習(1H)						
13	実習日誌の書き方と記録のポイント（2）：部分実習後の記録、実習終了時の記録等の書き方を学ぶ [課題] 事例またはエピソードの書き方の復習(2H)						
14	実習の反省(1) 教育実習の反省をし、次の教育実習に向けて課題を明らかにする。 [課題] 事後反省シートに記入しておき、個別面談に臨むこと。(1H)						
15	実習の反省(2) 教育実習の反省をし、次の実務研修に向けて課題を明らかにする。 [課題] 事後反省シートに記入しておき、個別面談に臨むこと。(1H)						
時間外での学修	保育に関する学修で身につけた知識と技能を復習しておくこと。実習に向けて、絵本や手遊び・集団遊びなどの教材研究と幼児 理解について意欲的に努力しようとする。						
受講学生へのメッセージ	幼稚園教育実習ですぐに役立つように発表の場を多く設ける。積極的に取り組み、自分なりのやり方を身につけてほしい。 オフィスアワーは内藤（H205）・名和（H211）で毎週木曜日の昼休みです。						

【EA】幼稚園教育実習Ⅰ		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択	実習	90時間		
教員	内藤 敦子・名和 孝浩						
資格・制限等	幼免必修／GPA並びに既修得科目による制限有り						
実務家教員	内藤：幼稚園教諭・40年、名和：保育所保育士・9年						
授業内容	これまでに学んだ知識や身につけた技術を保育現場で体験的に学び、保育実践力を身につけます。2週間の実習期間中、主に(1)観察を中心とした実習、(2)補助的な参加、部分実習を中心とした実習に取り組みます。						
授業方法	実習園でのオリエンテーション及び実習園での教育実習を2週間行います。なお、履修において本学または実習園で決められた事項を遵守出来ない場合は、実習を中止することがあります。						
到達目標	知識・理解	幼稚園の生活に参加し一日の流れを把握すると共に、保育を部分的に担当しながら、保育技術を習得する。			◎		
	思考・判断・表現	幼児と共に活動しながら観察し、幼児一人ひとりへの理解を深める。			△		
	技能	幼稚園の教育課程や指導計画を理解し、幼稚園教育について学ぶ。			○		
	関心・意欲・態度	幼稚園教諭としての役割を知り、積極的に実習に取り組む。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習園の評価		40	10	10	-	60
	実習日誌		10	-	10	-	20
	「教職演習」の評価		-	-	-	10	10
	提出物		-	-	-	10	10
合 計(点)		50	10	20	20	100	
評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。提出物は実習園・担当教員に提出するものの両方を含みます。						
テキスト	なし						
参考書・教材	『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
	第1回 実習園での オリエンテーション						
	第2回～第8回 幼稚園で教育実習（1週目） （1）観察を中心とした実習 ・実習園の概要を知る ・園児と共に活動しながら観察し、幼児理解に努める。 ・幼稚園における保育の資料を収集し、記録をとる。 ・安全に対する配慮、環境整備、清掃の仕方を知る。						
	第9回～第15回 幼稚園で教育実習（2週目） （2）補助的な参加・部分実習を中心とした実習 ・指導教員の補助的役割で保育に参加し、一日の流れを理解する。 ・幼稚園の教育課程・指導計画を理解する。 ・保育を部分的に担当しながら保育技術を習得する。 ・さまざまな幼児とコミュニケーションをとり、一人ひとりの発達への理解を深める。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。 ・園行事に参加し、行事のあり方について考える。 ・まとめを行い、今後の課題を見つける。 ・保育者や保護者と積極的にコミュニケーションをとり、保護者支援の仕方を学ぶ。						
時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の教員の指導を仰ぎましょう						
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から体調に留意し、自己管理を怠らず、実習を意欲的に取り組みましょう。オフィスアワーは内藤（H205）・名和（H211）で毎週木曜日の昼休みです。						

【EA】幼稚園教育実習Ⅱ		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択	実習	90時間		
教員	内藤 敦子・名和 孝浩						
資格・制限等	幼免必修／GPA並びに既修得科目による制限有り						
実務家教員	内藤：幼稚園教諭・40年、名和：保育所保育士・9年						
授業内容	これまでに学んだ知識や身につけた技術を保育現場で体験的に学び、保育実践力を身につけます。2週間の実習期間中、主に(1)観察を中心とした実習、(2)補助的な参加、部分実習を中心とした実習に取り組みます。						
授業方法	実習園でのオリエンテーション及び実習園での教育実習を2週間行います。なお、履修において本学または実習園で決められた事項を遵守出来ない場合は、実習を中止することがあります。						
到達目標	知識・理解	幼稚園の全体計画に即して部分的な指導計画を作成し、その実践を通して課題を掴み、保育技術を習得する。			◎		
	思考・判断・表現	幼児一人ひとりの発達を理解し、それに応じた援助の仕方を学ぶ。			△		
	技能	幼稚園の教育課程や指導計画を理解し、幼稚園教育についての学びを深める。			○		
	関心・意欲・態度	幼稚園教諭としての役割を知り、保育者や保護者、地域の方と積極的に関わり、実習に取り組む。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習園の評価		40	10	10	－	60
	実習日誌		10	－	10	－	20
	「教職演習」の評価		－	－	－	10	10
	提出物		－	－	－	10	10
	合 計(点)		50	10	20	20	100
評価の特記事項							
テキスト	なし						
参考書・教材	『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	第1回 実習園での オリエンテーション						
	第2回～第8回 幼稚園で教育実習（1週目） （1）参加を中心とした実習 ・実習園のようすを全体的に理解する。 ・幼児への理解を深め、一人ひとりに応じた援助の方法を見つける。 ・実習園の指導計画を理解し、焦点化した記録をとるようになる。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その克服と解明に努める。						
	第9回～第15回 幼稚園で教育実習（2週目） （2）部分・責任実習を中心とした実習 ・指導教員の保育内容や、環境構成と援助のあり方を身につけるように努める。 ・幼稚園の全体計画に即して一日の指導計画、もしくは部分的な指導計画を作成し、その実践を通して課題を掴む。 ・一人ひとりの幼児の発達について理解し、個に応じた指導や援助の方法を学びとし、実践する。 ・幼稚園教諭に求められる資質・能力を理解し、そこから今後の課題を掴む。 ・保育者や保護者、地域の方と積極的にコミュニケーションをとり、子育て支援者としての資質を身につける。						
時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の教員の指導を仰ぎましょう						
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から体調に留意し、自己管理を怠りなく、意欲的に取り組みましょう。オフィスアワーは内藤（H205）・名和（H211）で毎週木曜日の昼休みです。						

【EA】保育実習Ⅱ		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択	実習	90時間		
教員	名和 孝浩・内藤 敦子						
資格・制限等	保資選択必修／GPA並びに既修得科目による制限有り						
実務家教員	内藤：幼保園保育者・7年、名和：保育所保育士・9年						
授業内容	保育所保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。						
授業方法	保育実習園でのオリエンテーション及び実習園での保育実習を2週間行います。なお、保育実習を履修する際、本学または、実習園で決められた事項を遵守できない場合は、実習を中止することがあります。						
到達目標	知識・理解	保育の理解を深め、保護者や地域社会との連携のありかたについて学ぶ。			○		
	思考・判断・表現	乳幼児一人ひとりの発達を理解し、個に応じた援助の仕方を学ぶ。			○		
	技能	全体計画に即して一日もしくは部分的な指導計画を作成、実践し、保育技術を学ぶ。			◎		
	関心・意欲・態度	保育の理解を深め、乳幼児一人ひとりの理解を深めると共に集団としても捉えることができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習日誌		10	10	10	－	30
	実習園の評価		10	10	20	20	60
	提出物		－	－	－	10	10
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項	実習園の評価は所定の評価票を基に評価します。提出物は実習園・担当教員に提出するものの両方を含みます。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	『幼稚園・保育所実習・こども園パーフェクトガイド』わかば社 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育保育要領						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	第1回 実習園での オリエンテーション						
	第2回－第8回 保育所での保育実習（1週目） （1）参加を中心とした実習 ・実習園の様子を全体的に理解する。 ・乳幼児への理解を深め、一人ひとりに応じた援助の方法を見つける。 ・実習園の指導計画を理解し、焦点化した記録をとるようにする。 ・保護者や地域社会との連携のあり方について理解する。 ・自分の課題とテーマについて理解し、その解明と克服に努める。						
	第9回－第15回 保育所で保育実習（2週目） （2）部分・責任実習を中心とした実習 ・指導職員の保育内容や 環境構成と援助のあり方を身につけるように努める。 ・全体計画に即して一日もしくは部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し課題をつかむ。 ・一人ひとりの乳幼児の発達について理解し、個に応じた指導や援助の方法を学び、実践する。 ・保育士に求められる資質能力を理解し、そこから今後の課題をつかむ。 ・部分的な指導計画を作成し、それを実践して反省し、課題をつかむ。						
時間外での学修	・様々な保育技術を現場で生かせるように制作物の準備、ピアノの練習等を進めておきましょう。 ・実習記録をその日の内に記録・整理し、翌日の計画をたてましょう。 ・部分実習の指導案も計画的に作成し、担当の職員の指導を仰ぎましょう。						
受講学生へのメッセージ	実習は体力がいります。日頃から健康に留意し、自己管理を怠りなく、十分体調を整えて意欲的に実習に取り組みしましょう。オフィスアワーは内藤（H205）・名和（H211）で毎週木曜日の昼休みです。						

【ES】実習指導Ⅱ		幼児教育学科		2年通年			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	名和 孝浩・内藤 敦子						
資格・制限等	保資選択必修						
実務家教員	内藤：幼稚園教諭・40年、名和：保育所保育士・9年						
授業内容	保育実習Ⅰaでの実習を振り返りながら、保育実習Ⅱでの実践に向けて、改めて、保育実習の意義や目的を理解し、実習に向けた目的意識を高め、課題をもって実習に取り組めるよう学びます。実習日誌、指導案の考え方や教材準備、保育実技など、実習が充実するよう知識や技能を習得します。また、保育者の役割や職務内容などについてもさらに理解を深めます。						
授業方法	講義と演習						
到達目標	知識・理解	保育実習の意義と目的を理解し、保育場面で必要とされる基本的な知識を身につける。			○		
	思考・判断・表現	実習において達成すべき課題を明確にし、必要な準備をしたり、実習後に振り返ったりする。			○		
	技能	保育所保育指針に基づいた指導の実践について学び、実践力を養う。			◎		
	関心・意欲・態度	保育実習での望ましい態度を身につけると共に、必要な書類の作成が出来る。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		20	20	－	－	40
	実技試験		－	－	30	－	30
	提出物・受講態度		－	－	－	30	30
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項	提出物・レポートは期限を厳守してください。						
テキスト	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社(1,512円) ISBN:978-4907270018 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社(1,512円) ISBN:978-4907270155 1年次に購入済み						
参考書・教材	厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 久富陽子 編『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林 他、授業で紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	保育実習Ⅰaの振り返りと保育実習Ⅱに向けて ・保育実習Ⅰaを終え、課題の確認 [準備・課題]保育実習の反省と今後の課題をまとめる。(1H)						
2	保育所保育指針から学ぶ(1) ・認定子ども園との相違について知る。 保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」について学ぶ。 [準備・課題]保育所保育指針「総則」「子どもの発達」「保育の内容」を目を通しておく。(1H)						
3	保育所保育指針から学ぶ(2) ・幼稚園との違いについて知る。 「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」について学ぶ。 [準備・課題]保育所保育指針「保育の計画及び評価」「健康及び安全」「保護者に対する支援」を目を通しておく。(1H)						
4	保育実習での実践(1) ・年齢や季節にあわせた手遊びリストを作る。 [準備・課題]年齢や季節にあわせた絵本リストを作る。(2H)						
5	保育実習での実践(2) ・年齢や季節にあわせた歌リストを作る。 [準備・課題]年齢や季節にあわせた絵本リスト、手遊びリスト、歌リストを完成させる。(2H)						
6	保育実習での実践(3) ・部分実習の考え方、方法、実践 [準備・課題]模擬授業の準備をする。(2H)						
7	保育実習での実践(4) ・指導案の立て方を学ぶ。 ・指導案を立てて、模擬授業をする。 [準備・課題]模擬授業の準備をする。(2H)						
8	保育実習での実践(5) ・指導案の立て方を学ぶ。 ・指導案を立てて、模擬授業をする。 [準備・課題]模擬授業の準備をする。(2H)						
9	保育実習での実践(6) ・実習日誌の書き方を学ぶ。 [準備・課題]ぶつぶあでの具体的な子どもの様子をもとに、日誌に書く。(2H)						
10	保育実習での実践(7) ・実習日誌の書き方を学ぶ。 [準備・課題]ぶつぶあでの具体的な子どもの様子をもとに、日誌に書く。(2H)						
11	実習生としての心構え(1) ・園でのオリエンテーションを受ける時の視点を知る。 ・実習生としての実習態度、服装・身だしなみの確認をする。 [準備・課題]実習の手引きを確認する。(1H)						
12	実習生としての心構え(2) ・実習のめあての確認及び事務文書の作成をする。 ・実習日誌の扱いと整理をする。 [準備・課題]実習日誌を確認する。(1H)						
13	実習生としての心構え(3) ・事務文書の作成をする。 ・個人情報の保護に関して学ぶ。 [準備・課題]事務文書を完成する。(1H)						
14	まとめ ・実習の目的と内容の確認 ・評価について ・事務連絡 [準備・課題]実習に向けての準備を整える。(1H)						
15	実習を終えて反省 ・実習を振り返り、めあての達成など自己評価をする。 ・実習園からのアドバイスなどを元に、今後の学修に向けて課題を持つ。 [準備・課題]実習振り返り票の記入をする。(1H)						

時間外での学修	実習に向けて、他の科目での学修も生かしながら準備を進めていきましょう。時間外の学修については、確実に課題を進めていきましょう。
受講学生へのメッセージ	実習には体力が必要です。日頃から体調管理に努めると共に、心身の健康について日頃から意識しましょう。オフィスアワーは内藤（H205）・名和（H211）で毎週木曜日の昼休みです。



【ES】子ども基礎研究Ⅰ		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	今村 民子・光井 恵子・内藤 敦子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	内藤：幼稚園教諭 40年						
授業内容	保育者には子育て、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業では 学内にある子育てサロンに参加してこれまで学んできた知識や技能を基に自分のテーマをみつけ、さらに深く知りたいことや身につけたいことを観察したり体験的に学びながら保育者としての実践力を高めます						
授業方法	3つのグループに分かれて受講します。第2，4週目は子育てサロンに参加します。第3週目は学生と親子で遊ぶ中で遊びや発達を体験的に学びます。子育てサロンに参加しない週は事前の準備と、事後の記録や反省で振り返ることをします。						
到達目標	知識・理解	様々な場面を考慮した環境構成をすることができる			○		
	思考・判断・表現	幼児教育・保育の課題に気づき、それを分析し判断することができる			○		
	技能	子どもや子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができる			◎		
	関心・意欲・態度	お互いに協力しながら、誰とでも積極的に幅広く関わる事ができる			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	取り組みの計画や参加の記録		10	10	10	10	40
	レポート		10	10	－	－	20
	受講態度・参加の姿勢		－	－	20	20	40
	合 計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席の場合単位を認めません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	第 1 週 授業の概要（授業の進め方、評価の仕方、グループ分け）						
	第 2 週～第 1 5 週						
	4・5・6・7月 第2、4週 子育てサロンでの親子遊び体験 コーナー遊び等を通して、子どもの発達段階、親子への支援の方法を学ぶ 〔課題〕記録用紙のまとめ、コーナー遊び、終わりの会での出し物の準備（各1～2h）						
	4・5・6・7月 第3週（おねえさんといっしょ） 子育てサロンでの親子遊び体験（学生運営） 個々の親子と接する中で子どもと遊び、個性や特徴をみつけて保護者と話す 〔課題〕記録用紙のまとめ、コーナー遊び、終わりの会での出し物の準備（各1～2h）						
	子育てサロンに参加しない週 事前準備：目的と計画、準備 事後反省：各自とグループでの実施内容の報告 次回への反省課題 記録用紙記入 幼児教育合宿発表（グループ発表）に向けての準備 〔課題〕記録用紙のまとめ、終わりの会での出し物の準備（各1～2h）						
時間外での学修	授業の準備や練習は事前にしっかり済ませておくこと。 質問や疑問点については担当者の研究室に聞きに来てください。						
受講学生へのメッセージ	保護者や施設スタッフに対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。 グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。 オフィスアワーは毎週火曜日昼休みです。						

【ES】子ども基礎研究Ⅱ		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	今村 民子・光井 恵子・内藤 敦子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	内藤：幼稚園教諭 40年						
授業内容	保育者には子育て、子育て支援の中心的な役割を担って行くことが期待されています。この授業ではこれまで学んできた、知識や技能を基にさらに深く知りたいこと、身につけたいことを自分のテーマとして選び、大学の行事や子育て支援の現場に参加しながら、テーマについて研究し、保育者に必要となる知識や技能を体験的に学びます。						
授業方法	授業はグループに分かれて行事などに参加する準備と実際に体験して、記録や反省で振り返ることなどを繰り返しながら進めます。また、子ども研究に繋げていける各自の研究テーマを見つけていきレポート作成をしていきます。						
到達目標	知識・理解	様々な場面を考慮した環境構成をすることができる			○		
	思考・判断・表現	幼児教育・保育の課題に気づき、それを分析し判断することができる			◎		
	技能	子どもや子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができる			○		
	関心・意欲・態度	お互いに協力しながら、誰とでも積極的に幅広く関わるることができる			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	取り組みの計画や参加の記録		10	10	-	-	20
	レポート		10	30	10	-	50
	受講態度・参加の姿勢		-	-	10	20	30
	合 計(点)		20	40	20	20	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席の場合単位を認めません。						
テキスト	なし						
参考書・教材	必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	第 1 週 授業の概要（授業の進め方、評価の仕方） 〔課題〕前期子育てサロンでの参加記録の見直し（1～2h）						
	第 2～第 3 週 個人の研究テーマの設定 大学祭におけるグループ毎のテーマを設定 〔課題〕研究テーマの資料収集（1～2h）						
	第 4～第 5 週 個人の研究テーマに沿った大学祭での取り組みの計画と準備 大学祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組み計画と準備 〔課題〕研究テーマの資料収集（各1～2h）						
	第 6～第 12 週 個人研究テーマに沿って研究を進める こども祭におけるグループ毎のテーマを設定し取り組みと準備をする 〔課題〕研究テーマの資料収集、レポート作成（各1～2h）						
	第 13 週 個人研究レポート完成 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みと準備 〔課題〕研究テーマに沿った内容でのこども祭への取り組み方を考えてくる（1～2h）						
	第 14 週 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備 〔課題〕子ども研究でのテーマを考える（1～2h）						
	第 15 週 こども祭におけるグループ毎のテーマに沿った取り組みの計画と準備、まとめ 〔課題〕子ども研究でのテーマを考える（1～2h）						
時間外での学修	授業の準備は事前にしっかり済ませておくこと。						
受講学生へのメッセージ	保護者に対するマナーや挨拶、服装など社会人としての基本的な心得についても注意して臨むこと。グループごとに役割を分担して準備、企画を担当するなど、お互いに協力し合うようにすること。オフィスアワーは毎週火曜日昼休みです。						

【EF】 ウインドアンサンブル(2年次 前期)		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階スケールをすべて演奏できる。保育現場において、子供の成長発達に応じた音楽活動について、演奏技術を活用してその指導や支援ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達指標の結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合 計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。パート内交流。 [準備・課題]シラバスの熟読・自己の基礎力を確認 (2h～4h)						
2	基礎力向上の為の講座①（個人の基礎力チェック） パート内で確認し合う。 及び基礎力向上のための楽曲①配布・音だし・合奏 [準備・課題]楽曲①の研究及び練習、個々に基礎力をチェック (2h～4h)						
3	基礎力向上の為の講座②（ロングトーン） 及び音楽鑑賞用楽曲②配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲②の研究及び練習、ロングトーンの実践(2h～4h)						
4	基礎力向上の為の講座③（チューニング） 及び音楽鑑賞用楽曲③配布・音だし・合奏 [準備・課題]楽曲③の研究及び練習、チューニング方法の確認 (2h～4h)						
5	基礎力向上の為の講座④（長音階スケール） 及び音楽鑑賞用楽曲④配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲④の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h～4h)						
6	基礎力向上の為の講座⑤（長音階スケール） パート内で確認し合う。 及び音楽鑑賞用楽曲⑤配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑤の研究及び練習、長音階スケールの練習 (2h～4h)						
7	基礎力向上の為の講座⑥（ユニゾン） 及び音楽鑑賞用楽曲⑥配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑥の研究及び練習、ユニゾンの合わせ方を復習 (2h～4h)						
8	基礎力向上の為の講座⑦（3連符と12/8拍子での音階） 及び音楽鑑賞用楽曲⑦配布・音だし・合奏 [準備・課題]楽曲⑦の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 (2h～4h)						
9	基礎力向上の為の講座⑧（16分音符での音階） 及び音楽鑑賞用楽曲⑧配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑧の研究及び練習、16分音符での音階練習 (2h～4h)						
10	基礎力向上の為の講座⑨（3度） 及び音楽鑑賞用楽曲⑨配布・音だし・合奏 [準備・課題]楽曲⑨の研究及び練習、3度の練習 (2h～4h)						
11	基礎力向上の為の講座⑩（4度） 及び音楽鑑賞用楽曲⑩配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑩の研究及び練習、4度の練習 (2h～4h)						
12	基礎力向上の為の講座⑪（5度） 及び音楽鑑賞用楽曲⑪配布・音だし・合奏 [準備・課題]楽曲⑪の研究及び練習、5度の練習 (2h～4h)						
13	基礎力向上の為の講座⑫（アルペジオ：長調） 及び音楽鑑賞用楽曲⑫配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑫の研究及び練習、アルペジオ：長調の練習 (2h～4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	基礎力向上の為の講座⑬（3度・4度・5度・6度の練習） 及び音楽鑑賞用楽曲⑬配布・音出し・合奏 [準備・課題]楽曲⑬の研究及び練習、3度・4度・5度・6度の練習（2h～4h）
15	基礎力向上の為の講座⑭（長3和音と属7の和音） 試験指定曲の合奏 [準備・課題]試験指定曲の研究及び練習、長3和音と属7の和音の練習（2h～4h）
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【EF】 ウインドアンサンブル(2年次 後期)		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択必修	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	服部篤典「オーケストラ・25年」						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、各所において、それぞれの役割を理解し、演奏力の向上を目指します。また、授業以外に、各楽器の個人レッスンがあります。さらに、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。						
授業方法	吹奏楽の合奏レッスンが中心で、そのほかに各楽器のレッスン、場合によってパート別レッスン、セクションや分奏のレッスンなどが行われます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を理解し、クラシック、ジャズ、ポピュラー等ジャンルの様式や特徴を理解する。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽で演奏されるジャンルの基本的な知識があり、楽曲に合った演奏表現ができ、パートや合奏隊の一員としての責任を果たすことができる。			△		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階スケールをすべて演奏できる。保育現場において、子どもの成長発達に応じた音楽活動について、演奏技術を活用してその指導や支援ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の保育者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達指標の結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	小テスト・提出物		10	10	-	-	20
	合 計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽譜等その都度配布。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力向上の為の講座①（短音階スケール） 及び音楽鑑賞用楽曲①配布・音だし・合奏 [準備・課題] 楽曲①の研究及び練習、短音階スケールの練習 （2h～4h）						
2	基礎力向上の為の講座②（短音階スケール） パート内で確認しあう。 及び音楽鑑賞用楽曲②配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲②の研究及び練習、短音階スケールの練習（2h～4h）						
3	基礎力向上の為の講座③（3連符と12/8拍子での音階） 及び音楽鑑賞用楽曲③配布・音だし・合奏 [準備・課題] 楽曲③の研究及び練習、3連符と12/8拍子での音階練習 （2h～4h）						
4	基礎力向上の為の講座④（16分音符での音階） 及び音楽鑑賞用楽曲④配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲④の研究及び練習、16分音符での音階練習 （2h～4h）						
5	基礎力向上の為の講座⑤（3度） 及び音楽鑑賞用楽曲⑤配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲⑤の研究及び練習、3度の練習（2h～4h）						
6	基礎力向上の為の講座⑥（アルペジオ：短調） 及び音楽鑑賞用楽曲⑥配布・音出し・合奏 [準備・課題] 楽曲⑥の研究及び練習、アルペジオ：短調の練習（2h～4h）						
7	基礎力向上の為の講座⑦（短3和音と減7の和音） 及び定期演奏会選曲・音だし1 [準備・課題] 定期演奏会プログラムの研究、短3和音と減7の和音の練習（2h～4h）						
8	基礎力向上の為の講座⑧（グルーピング他） 及び定期演奏会選曲・音だし2 [準備・課題] 定期演奏会プログラムの研究、グルーピング他の復習（2h～4h）						
9	基礎力向上の為の講座⑨（重心他） 及び定期演奏会に向けての練習1 楽曲1・2 [準備・課題] 定期演奏会の研究及び楽曲1・2の練習、重心他の復習（2h～4h）						
10	基礎力向上の為の講座⑩（コントラスト他） 及び定期演奏会に向けての練習2 楽曲3・4 [準備・課題] 定期演奏会の研究及び楽曲3・4の練習、コントラスト他の復習（2h～4h）						
11	定期演奏会に向けての練習3 楽曲5～7 [準備・課題] 定期演奏会の研究及び楽曲5～7の練習（2h～4h）						
12	定期演奏会に向けての練習4 楽曲8～10 [準備・課題] 定期演奏会の研究及び楽曲8～10の練習（2h～4h）						
13	定期演奏会に向けての練習5 全曲 [準備・課題] 定期演奏会の研究及び全曲の練習（2h～4h）						
14	定期演奏会に向けての練習6 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題] 定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	定期演奏会に向けての練習 7 全曲 及び試験指定曲の合奏 [準備・課題]定期演奏会の研究・練習及び試験指定曲の研究・練習 (2h~4h)
時間外での学修	授業以外に各楽器のレッスンがあります。必要に応じて個人練習、パート練習、セクション練習等を行ってください。
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。一人でも欠けるとアンサンブルが成立しません。無断欠席・遅刻厳禁。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【EB】音楽理論		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択必修	講義	30時間		
教員	加藤 有子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	保育者や音楽療法士になるために必要な音楽知識を基礎から応用まで学び、幅広い音楽性を身に付けていきます。また現場で活かせるよう、鍵盤楽器を活用して和声法や作曲法、アレンジ法の基礎を修得していきます。						
授業方法	講義形式ですが、演習的な内容も多く含み、作曲やアレンジした曲を発表する活動も取り入れながら授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	保育者や音楽療法士になるために必要な音楽知識を理解し、説明することができる。			◎		
	思考・判断・表現	教育や保育に必要な音楽知識を身につけ、さまざまな音楽活動で活用し表現することができる。			○		
	技能	豊かな感性をもち、幅広い音楽ジャンルの曲を理解し、説明することができる。			○		
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描き、教育や保育におけるさまざまな課題に対して、積極的に取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		30	20	-	-	50
	発表		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	-	30	30
	合 計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『改訂 音楽通論』（1年次「音楽Ⅰ・Ⅱ」で使用したテキスト）教育芸術社(1,009円) ISBN:978-4877884125						
参考書・教材	音楽の五線紙は必ず持参してください。必要な資料は授業で配布します。						
内 容							
実施回	授業内容・目標						
1	音楽の仕組み (1) 譜表・音名・音符・休符・拍子・小節について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、バイエル等の楽譜上で確認する (2～3h)						
2	音楽の仕組み (2) 単音程 (1・2・3・4・5・6・7・8度音程) について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、単音程は鍵盤上でしっかりと確認する (2～3h)						
3	音楽の仕組み (3) 複音程と派生音を含む音程について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、鍵盤上で確認する (2～3h)						
4	音楽の仕組み (4) 長音階 (ハ長調・ト長調・ヘ長調・ニ長調・変ロ長調・イ長調・変ホ長調) について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、長調の音階は鍵盤上で確認する (2～3h)						
5	音楽の仕組み (5) 短音階 (イ短調・ホ短調・ニ短調・ト短調・ハ短調) について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、短調の音階は鍵盤上で確認する (2～3h)						
6	音楽の仕組み (6) 調号と近親調 (平行調・同主調・属調・下属調) について 〔課題〕学習した内容を復習し、鍵盤上で確認する (2～3h)						
7	音楽の仕組み (7) 和音 (三和音と七の和音) の記号と種類について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、和音の違いを鍵盤上で確認する (2～3h)						
8	音楽の仕組み (8) コードネーム (英語音名の理解とその示す内容) について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、コードネームは鍵盤上で確認しながら確実に覚える (2～3h)						
9	音楽の仕組み (9) コード進行法について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、鍵盤上で確認しながら練習する (3～6h)						
10	和声法の基礎 コード進行法の復習と課題の確認、和音のさまざまな関係、終止形について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、鍵盤上で確認しながら練習する (3～6h)						
11	作曲法の基礎 簡単な曲作りの方法と、作曲法を活用した前期課題に向けての内容について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、鍵盤上で確認しながら練習する (3～6h)						
12	アレンジ法の基礎 リズム・メロディ・ハーモニーの簡単なアレンジ法について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、鍵盤上で確認しながら練習する (3～6h)						
13	前期課題に向けて (1) こどもの歌をオリジナルで作詞、作曲する。その内容と方法について 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、鍵盤上で確認しながら練習する (3～6h)						
14	前期課題に向けて (2) こどもの歌の作詞、作曲と、その作品の中間発表 〔準備・課題〕学習した内容を復習し、鍵盤上で確認しながら練習する (3～6h)						
15	前期課題に向けて (3) こどもの歌の完成と、その作品の発表 〔準備・課題〕オリジナルで作曲した子どもの歌の反省点と、総合的なまとめ (3～6h)						
時間外での学修	保育者や音楽療法士として子どもたちを指導するために必要な音楽力を身に付けていきますので、各回の内容を積極的に復習してください。						
受講学生へのメッセージ	音楽をしっかり学び、その知識・技能を身に付けることは、保育者としての指導力に大きく関わります。体調を常に整えて遅刻や欠席をしないように心がけましょう。オフィスアワーは非常勤講師控室で毎週木曜日17：50から18：30です。						

【ES】音楽心理学		幼児教育学科		2年前期		
		2単位	選択必修	講義	30時間	
教員	菅田 文子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年					
授業内容	音楽心理学とは何かについて学びます。簡単な実験に参加することで、実際に音楽が人の心身にもたらす作用について学びます。音楽療法資格の取得にはこの授業が必修となっています。					
授業方法	演習を含む講義形式です。					
到達目標	知識・理解	音楽心理学研究の流れについて理解し、基礎的な知識を身につけている。			◎	
	思考・判断・表現	音楽心理学研究で用いられる研究法の違いを説明できる。			○	
	技能	音楽心理学で用いられる質問紙の点数計算ができる。			△	
	関心・意欲・態度	積極的に質問紙への解答、計算を含む課題に取り組み提出することができる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
		40	20	－	－	60
	筆記試験	－	－	10	10	20
	課題提出	－	－	－	20	20
	受講態度					
	合 計(点)	40	20	10	30	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、授業回数の1/3以上欠席した学生は受験資格がありません。					
テキスト	『プリントを授業内で配布します。』 『音は心の中で音楽になるー音楽心理学への招待』谷口高士 北大路書房(3,024円)ISBN:978-4762821738					
参考書・教材						
内 容						
実施回	授業内容・目標					
1	音楽心理学とは 実験1：メンタルテンポの測定。安静時と活動後の違いの比較、集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、メンタルテンポについてまとめる (4H)					
2	メンタルテンポと好みのテンポの関連について 実験2：ゲシュタルト原理と音の群化について 集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、ゲシュタルトについて理解する (4H)					
3	リズム知覚能力の発達 実験3：調の色彩的表象 (12色以上の色鉛筆を持参してください) 集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、色彩と音との印象の関係についてまとめる (4H)					
4	共感覚について 実験4：楽器の音色による色彩的表象 (12色以上の色鉛筆を持参してください) 集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、音色と色の関係についてまとめる (4H)					
5	絶対音感と相対音感について 実験5：絶対音感テスト 音楽心理学の研究手法について (1) 観察法 (2) 実験法 (3) 質問紙法 それぞれの特長と適した研究法について [準備・課題]学んだ内容を復習し、心理学研究の手法について理解する。自分の持つ音感の特性について理解する (4H)					
6	音による感情伝達 実験6：打楽器による感情表現 集団活動、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、リズムの違いによる感情表現について理解する (4H)					
7	BGMについて BGMの歴史と現在の研究動向 [準備・課題]身近な環境にあるBGMについて調べレポートにまとめる (4H)					
8	音楽と消費者行動 CMにおける音楽の与える影響、店頭における音楽の影響について [準備・課題]知っているCMソングについて調べレポートにまとめる (4H)					
9	音楽心理学で用いる心理尺度について AVSM、STAI 集団活動 [準備・課題]学んだ内容を復習し、心理尺度の計算について理解する (4H)					
10	音楽聴取に関する研究1：感情の神経・生理学的測定について [準備・課題]学んだ内容を復習し、音楽に対する生理的反応について理解する (4H)					
11	音楽聴取に関する研究2：刺激要因を問題として [準備・課題]学んだ内容を復習し、音楽の違いによる感情反応の違いについて理解する (4H)					
12	音楽聴取に関する研究3：聴取者間要因を問題として [準備・課題]学んだ内容を復習し、聴取者の性格特性による感情反応の違いについて理解する (4H)					
13	演奏不安に関する研究について 討論、発表 [準備・課題]学んだ内容を復習し、演奏反応の克服のための方法についてまとめる (4H)					
14	最近のトピックス 脳研究と音楽認知 [準備・課題]学んだ内容を復習し、理解を深める (4H)					
15	テスト前の振り返り [準備・課題]学んだ内容を復習し、テストの準備をする (4H)					
時間外での学修	プリントをみて学んだことを復習してください。					
受講学生へのメッセージ	実験の参加や心理尺度の評定など、学生が作業しなければならない活動も授業に含まれます。積極的に参加してください。 心理尺度の評定の提出状況なども採点に含まれます。 オフィスアワーは研究室 (B403：B号館4階) で毎週木曜日の13：00～14：30です。					



【EB】音楽療法・基礎		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択必修	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業内容	この授業では、音楽療法のアセスメントの原理・方法についての基本的な知識と、アセスメントが実際にできるような技術について学びます。具体的には、アセスメントの種類について学ぶことと、音楽療法場面のビデオを見ながら記録を取る練習を通じて音楽療法士に必要な臨床的視点の獲得と、状況を的確に記録する文章能力を養います。						
授業方法	講義形式ですが授業の一部で演習活動も含まれます。						
到達目標	知識・理解	音楽療法におけるアセスメントの種類や方法についての知識を持っている。			◎		
	思考・判断・表現	ランニング・アセスメントのビデオを見て、対象者の行動を客観的に正しく記述することができる。 対象者のニーズを把握し、それに合った治療目標を設定し、目標を達成するための音楽活動を計画することができる。			◎		
	技能	音楽療法に関する専門用語を理解し、使うことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		40	30	-	-	70
	発表（グループ発表含む）		-	10	10	-	20
	受講態度		-	-	10	-	10
	合 計(点)		40	40	20	-	100
評価の特記事項	欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。 課題の提出及び発表がない学生には単位を与えません。						
テキスト	『音楽療法を知る-その理論と技法-』宮本啓子、二俣泉 杏林書院(2,700円) ISBN:978-4-7644-0532-5						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション：音楽療法の手順について アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習①、レポート提出 [準備・課題]学んだ内容を復習し音楽療法の手順について理解する						
2	アセスメントについて：調査票、標準化されたテスト、ランニング・アセスメントについて アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習②、レポート提出 [準備・課題]学んだ内容を復習し、ランニングアセスメントの役割について理解する（4H）						
3	行動観察について：アセスメントセッションのビデオを視聴、記録の練習③ [準備・課題]学んだ内容を復習し、アセスメントの種類について理解する（4H）						
4	音楽活動の記録について：客観的な記述方法について。反応のあった音楽、視線、セラピストとのかかわりなどについて主観を交えずに描写することができる。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、客観的な記述について理解する（4H）						
5	対象者の立場で感じて、音楽活動やセラピストの働きかけが対象者にどのように受け止められたか、対象者の感情を推し量って記述し、次回からのセッションの活動で何を用い、どこを変えなければならないか自分の考えを記述することができる。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、主観的な記述と客観的な記述を分けて考えられるようにする（4H）						
6	目標設定について：対象者の分野別に異なる目標があることを知る。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、分野別の目標と活動内容についてレポートを作成する（4H）						
7	長期目標と短期目標について：それぞれの目標の違いを知り、短期目標の立て方を学ぶ。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、長期目標に対応した短期目標を含む音楽活動を考える（4H）						
8	目標に応じた音楽活動の計画1：「動きを促す音楽活動」短期目標として具体的な音楽活動を計画する。 グループあるいは個人で活動を発表する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、音楽活動の発表に向けて練習する（4H）						
9	目標に応じた音楽活動の計画2：「社会性を促す音楽活動」短期目標として具体的な音楽活動を計画する。 グループあるいは個人で活動を発表する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、社会性と音楽活動の関連について理解する（4H）						
10	目標に応じた音楽活動の計画3：「コミュニケーションを促す音楽活動」短期目標として具体的な音楽活動を計画する。 グループあるいは個人で活動を発表する。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、コミュニケーション能力と音楽活動の関連について理解する（4H）						
11	事例から目標と活動を設定する演習1：児童 児童の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、児童の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
12	事例から目標と活動を設定する演習2：成人 成人の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、成人の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
13	事例から目標と活動を設定する演習3：高齢者 高齢者の事例を読み、対象者に受け入れられる選曲と活動、発表を考える。 [準備・課題]学んだ内容を復習し、高齢者の音楽活動に使用する曲を練習する（4H）						
14	この授業のレポート課題内容を説明する。 [準備・課題]レポート課題に取り組む（4H）						
15	レポート課題の作成 レポート課題を作成、完成させる。 [準備・課題]学んだ内容の復習（4H）						
時間外での学修	教科書や指定された参考資料を読み、授業で学んだ事柄を理解して次の授業に臨んでください。						
受講学生へのメッセージ	音楽療法士になるにあたって基本的な知識と技能を身につけるための重要な授業です。 課題の提出状況が評価に含まれます。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【ES】器楽 I		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	光井 恵子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	鍵盤楽器を中心に、各自のレベルに合わせた個人レッスンを行います。保育者に必要な音楽の基礎技術や技能を修得し、音楽に対する感性を磨きながら表現力を高めていけるよう実践的に学びます。						
授業方法	各自のレベルに合わせたピアノの個人レッスンが中心です。						
到達目標	知識・理解	様々な音楽のジャンルについて理解し、説明することができる。			○		
	思考・判断・表現	柔軟な表現力で保育実践に取り組むことができる。			○		
	技能	現場に即した演奏技術を高めるよう努める			◎		
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表		－	20	20	－	40
	達成度		15	－	15	－	30
	受講態度		－	－	－	30	30
合 計(点)		15	20	35	30	100	
評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価します。 授業回数の1/3以上以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『バイエル教則本』 『ブルグミュラー25の練習曲』 『ソナチネアルバム』他各自の楽譜						
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	第1週 授業の説明 選曲等 〔課題〕 次回のレッスン曲の予習（1～2h）						
	第2週～第12週 ピアノ4手連弾、6手連弾、ピアノデュオで遊ぼう（2～3人でのグループワーク活動） 各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン（課題の確認、レベルに合わせた選曲） （正確な譜読み・・・音 リズム 適切な指使い） （様々な表現法・・・強弱 テンポ ペダリング フレージング） （保育現場での活用法） 〔課題〕 授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習（各1～2h）						
	第13週～第14週 ピアノ4手連弾、6手連弾、ピアノデュオで遊ぼう（2～3人でのグループワーク活動） 各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン（発表に向けての課題曲の仕上げ） 〔課題〕 授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習 発表に向けての課題曲の弾き込み（各1～2h）						
	第15週 個人発表とグループ発表、まとめ						
時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために毎日練習し、積極的に予習・復習を行ってください。						
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週火曜日昼休みです。						

【ES】器楽Ⅱ		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	光井 恵子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	器楽Ⅰに引き続き、各自のレベルに合わせた鍵盤楽器中心の個人レッスンをを行います。保育現場に必要な演奏技術を向上させながら、実習などで活用できるよう実践的な応用力を身につけていきます。						
授業方法	各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスンが中心です。						
到達目標	知識・理解	様々な音楽のジャンルについて理解し、説明することができる。			○		
	思考・判断・表現	柔軟な表現力で保育実践に取り組むことができる。			○		
	技能	現場に即した演奏技術を高め実践することができる。			◎		
	関心・意欲・態度	理想の保育者像を常に描きながら積極的に課題に取り組むことができる			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点 評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)	
		発表	－	20	20	－	40
		達成度	15	－	15	－	30
		受講態度	－	－	－	30	30
		合 計(点)	15	20	35	30	100
評価の特記事項	受講態度は、予習・復習も含めた学修への取り組み状況で評価をします。 授業回数の1/3以上以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『バイエル教則本』 『ブルグミュラー25の練習曲』 『ソナチネアルバム』他各自の楽譜						
参考書・教材	必要な資料は授業で配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	第1週～第12週 各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン（課題に野確認、レベルに合わせた選曲） ピアノ4手連弾、6手連弾、ピアノデュオで遊ぼう（2～3人でのグループワーク活動）  （正確な譜読み・・・音 リズム 適切な指使い） （様々な表現法・・・強弱 テンポ ペダリング フレージング） （保育現場での活用法） 〔課題〕授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習（各1～2h）						
	第13週～第14週 各自のレベルに合わせたピアノ個人レッスン（発表に向けての課題曲の仕上げ） ピアノ4手連弾、6手連弾、ピアノデュオで遊ぼう（2～3人でのグループワーク活動） 〔課題〕授業でのアドバイスをもとに復習、次回のレッスン曲の予習 発表に向けての課題曲の弾き込み（各1～2h）						
	第15週 個人発表とグループ発表、まとめ						
時間外での学修	保育現場で役立つ実力を身に付けるために毎日練習し、積極的に予習・復習を行ってください。						
受講学生へのメッセージ	積極的に学ぶ姿勢を最後まで持ち続け、保育技術を高めるための努力をしてください。毎回の授業でレベルアップしていきますので、常に体調を整えて遅刻・欠席しないように心がけましょう。 オフィスアワーは光井研究室（A307：A号館3F）で毎週火曜日昼休みです。						

【EA】保育教材研究		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	立崎 博則						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	造形活動ついて、造形ワークショップの計画や作品の制作を通し、教材または素材の研究（マテリアルアプローチ）を中心に発展的な実践を目指す。						
授業方法	造形ワークショップの計画と実践、また課題となる作品制作を通し、その学びをまとめる。						
到達目標	知識・理解	素材や道具の基本的な知識を活かし、より発展的な使い方の調査や発想する方法を理解する。			◎		
	思考・判断・表現	子どもと素材や道具の出会い方について、様々なアイデアをまとめ造形ワークショップや作品制作を計画することができる。			◎		
	技能	素材や道具を使いこなし、保育のために工夫をして作品や教材の制作ができる			◎		
	関心・意欲・態度	予習・復習・準備・片付けを積極的に行う。日々の生活の中で様々な美に対して関心を持ち、自らの好きだと感じる物を増やし、表現を楽しむことができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	指導案		30	-	-	-	30
	創作作品		-	-	30	-	30
	ポートフォリオ		-	30	-	-	30
	授業態度		-	-	-	10	10
合 計(点)		30	30	30	10	100	
評価の特記事項							
テキスト							
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	造形ワークショップを考える 素材をテーマに考える1 アイデア出し [課題]授業で扱った素材についてさらにアイデアを考えてくる。(1`2h)						
2	造形ワークショップを考える 素材をテーマに考える1 やってみよう [課題]授業で扱った素材についてさらにアイデアを考えてくる。(1`2h)						
3	造形ワークショップを考える 素材をテーマに考える2 アイデア出し [課題]授業で扱った素材についてさらにアイデアを考えてくる。(1`2h)						
4	造形ワークショップを考える 素材をテーマに考える2 やってみよう [課題]授業で扱った素材についてさらにアイデアを考えてくる。(1`2h)						
5	造形ワークショップを考える 素材をテーマに考える3 アイデア出し [課題]授業で扱った素材についてさらにアイデアを考えてくる。(1`2h)						
6	造形ワークショップを考える 素材をテーマに考える3 やってみよう [課題]授業で扱った素材についてさらにアイデアを考えてくる。(1`2h)						
7	子どものための作品や遊具を考える 環境をテーマに考える アイデア出し [課題]アート作品やエンターテイメント作品から転用できそうなアイデアを集めまとめる。(1`2h)						
8	子どものための作品や遊具を考える 環境をテーマに考える 素材選び [課題]アート作品やエンターテイメント作品から転用できそうなアイデアを集めまとめる。(1`2h)						
9	子どものための作品や遊具を考える 環境をテーマに考える 設計図を描く [課題]アート作品やエンターテイメント作品から転用できそうなアイデアを集めまとめる。(1`2h)						
10	子どものための作品や遊具を考える 環境をテーマに考える 制作1 [課題]アート作品やエンターテイメント作品から転用できそうなアイデアを集めまとめる。(1`2h)						
11	子どものための作品や遊具を考える 環境をテーマに考える 制作2 [課題]アート作品やエンターテイメント作品から転用できそうなアイデアを集めまとめる。(1`2h)						
12	子どものための作品や遊具を考える 環境をテーマに考える 制作3 [課題]アート作品やエンターテイメント作品から転用できそうなアイデアを集めまとめる。(1`2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	<p>子どものための作品や遊具を考える 環境をテーマに考える 制作4</p> <p>[課題] アート作品やエンターテイメント作品から転用できそうなアイデアを集めまとめる。(1~2h)</p>
14	<p>子ども達の作品鑑賞について 作品鑑賞について</p> <p>[課題] 自分の好きなモノについての課題に取り組む(1~2h)</p>
15	<p>子ども達の作品鑑賞について 鑑賞から活動に</p> <p>[課題] 自分の好きなモノについての課題に取り組む(1~2h)</p>
時間外での学修	<p>・日々の生活の中で、アートやデザインについて主体的に興味を持って過ごし、自分の造形表現のヒントになる気づきをまとめてきてください。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>子ども達の「好き」（豊かな感性）と一緒に増やし、子ども達の「やってみたい！」（創造力）を支えることができるよう、教材研究について向き合ってください。 オフィスアワーは、研究室（H201）にて金曜日11:00-12:00です。</p>

【ES】シアター		幼児教育学科		2年前期			
		2単位	選択必修	演習	60時間		
教員	立崎 博則・浦木 京子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	保育所や幼稚園等における視聴覚教材の一つ、エプロンシアターとペーパーパペットシアターを制作し、実習・研修 で活用できるよう、操作方法やシアターを利用した保育技術について学ぶ。						
授業方法	二つのグループに分かれ、前半後半と交互にエプロンシアターとペーパーパペットシアターを学びます。個々の作品の制作に取り組み、グループ演習を通して、互いに保育の技術を高めます。						
到達目標	知識・理解	シアターの制作方法や演じ方について必要な知識を身につけることができる。			◎		
	思考・判断・表現	対象年齢や有効な使い方、子どもの気持ちや反応等を判断し表現することができる。			○		
	技能	シアターを制作し、子ども理解に応じた言葉遣いで、コミュニケーションをとりながら演じることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	豊かな感性と教養を養い、理想の保育者像を描き、積極的に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		20	-	20	-	40
	レポート		15	-	-	-	15
	発表		-	20	10	-	30
	受講態度		-	-	-	15	15
	合 計(点)		35	20	30	15	100
評価の特記事項	受講態度は学修への取組状況、授業外の課題の取組、準備や後片付けなどの状況を総合的に評価します。3分の1以上欠席の場合、単位を与えません。						
テキスト							
参考書・教材	教材:それぞれのシアターに必要な材料があります。指示に従って準備してください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						

内容	
実施回	授業内容・目標
	<p>&lt;2グループ合同&gt;  第1回:オリエンテーション シアターについて  ・作品製作に必用な用具の準備説明  ・ペーパーパペットシアターについて ・エプロンシアター ポケットに数字を縫い付ける ※持ち物(布・はさみ・木綿針・木綿糸・フェルト・刺繍糸 他・紐・安全ピン4本) [課題]授業内で指示した制作及び次回制作の準備(2h) ※授業外課題は毎回チェックし、指導します。</p> <p>&lt;前半Aグループ・後半Bグループ&gt;  第2回(第 8回):エプロンを製作する (布の裁断・かがり縫い・ミシン使用可)  [課題]授業内で指示した制作及び次回制作の準備(2h)</p> <p>第3回(第 9回):エプロンにポケットを縫い付ける  [課題]授業内で指示した制作及び次回制作の準備(2h)</p> <p>第4回(第10回):布マスコットの作成  [課題]授業内で指示した制作及び次回制作の準備(2h)</p> <p>第5回(第11回):布マスコットの作成  [課題]授業内で指示した制作及び次回制作の準備(2h)</p> <p>第6回(第12回):布マスコットの作成  [課題]作品完成へ向けての制作及び演じるために必要なものの準備(2h)</p> <p>第7回(第13回):作品完成 演じ方を学ぶ  [課題]学習内容を振り返り 発表に向けて演じ方を練習する(2h)</p> <p>&lt;前半Bグループ・後半Aグループ&gt;  第2回(第8回):  様々なタイプのペープサートを作ってみる  クイズとペープサート  [課題]課題作品について工夫や発表時のポイントについてまとめてくる(2h)</p> <p>第3回(第9回): 様々なタイプのペープサートを作ってみる  手遊びとペープサート  [課題]課題作品について工夫や発表時のポイントについてまとめてくる(2h)</p> <p>第4回(第10回): 様々なタイプのペープサートを作ってみる  物語とペープサート  [課題]課題作品について工夫や発表時のポイントについてまとめてくる(2h)</p> <p>第5回(第11回): 自分のペープサートを制作1  [課題]自分の制作についてアイデアや発表時のポイントについてまとめてくる(2h)</p> <p>第6回(第12回): 自分のペープサートを制作2  [課題]自分の制作についてアイデアや発表時のポイントについてまとめてくる(2h)</p> <p>第7回(第13回): 発表の練習  [課題]自分の制作についてアイデアや発表時のポイントについてまとめてくる(2h)</p> <p>&lt;2グループ共通&gt; 第14回:演じ方の基本理解・グループ演習・発表  [課題]発表の練習及び演じるために必要なものの準備(2h)</p> <p>&lt;2グループ合同&gt; 第15回:エプロンシアター、ペーパーパペットシアター発表・まとめと反省 (授業外課題をもとに、演じ方を工夫して発表する)  [課題]保育実習・研修に活用できるよう反省点等をまとめる(1h)</p>
時間外での学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の[課題]を必ず行い、制作が遅れないように、忘れ物のないようにしてください。</li> <li>・子どもたちが楽しめるシアターとはどんなものか日ごろから、様々な「シアター」に目を向けてみましょう。</li> <li>・保育実習や研修、ボランティア活動などの機会を利用し、子どもの前で演じることに慣れ、作品を有効活用してください。</li> </ul>
受講学生へのメッセージ	<p>エプロンシアター・ペーパーパペットシアターを始める前の導入として、手遊びや歌もセットで準備すると良いでしょう。何度も繰り返し演じることが自信や笑顔に繋がります。機会を見つけて積極的に披露しましょう。</p> <p>オフィスアワー 浦木：H210/火曜日12:30-13:00 立崎：H201/金曜日11:00-12:00です。</p>

【ES】スポーツ・レクリエーションⅠ		幼児教育学科		2年前期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	中野 由香里						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむことができます。これら軽スポーツやレクリエーションの特性について理解し、レクリエーションの中で行われる遊びや活動によってもたらされる「楽しさ」についてスポーツと関連させて学習し、保育や地域活動等で活かせるレクリエーションを学びます。						
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、主に体育館で実技を実施します。内容によって教室にて講義を実施します。学外授業は次の①と②です。①5月26日(日) 関ヶ原町笹尾山グラウンド ②6月9日(日)は大垣市総合体育館 ①、②について詳細と振替日について、第1回の授業時に説明します。						
到達目標	知識・理解	レクリエーションの特性について理解する。			△		
	思考・判断・表現	保育者として、レクリエーションの方法について理解し、実践することができ			◎		
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動の中で、仲間と協力することができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	小テスト		10	-	10	-	20
	レポート		-	15	-	-	15
	自己評価		-	15	-	-	15
	課題提出		-	-	20	-	20
	受講態度		-	-	-	30	30
	合 計(点)		10	30	30	30	100
評価の特記事項	小テスト(1回)、課題提出(1回)、レポートと自己評価は出席カードの内容を基に評価します。 受講態度は毎時間の取り組み姿勢を評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は単位を与えません。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益財団法人 日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 『アイスブレーキング集』公益財団法人 日本レクリエーション協会(900円)ISBN:978-4-931180-72-7						
参考書・教材	『チャレンジ・ザ・ゲーム (ルールガイド)』 幼稚園教育要領具解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	講義：レクリエーション概論「レクリエーションとレクリエーション・インストラクター」 〔準備・課題〕資格について理解し、手続きの書類を準備する。(1h～2h)						
2	講義：楽しさと心の元気づくりの理論Ⅰ「楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気」 〔準備・課題〕講義内容をノートにまとめ、学外授業の準備をする。(1h～2h)						
3	講義：レクリエーション支援の理論Ⅰ「コミュニケーションと信頼関係づくりの理論」、アイスブレーキングの実践1(安心感をつくる) 〔準備・課題〕講義内容をノートにまとめ、実践の復習をする。(1h～2h)						
4	実技：レクリエーション支援の方法Ⅰ-1「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ1」、 〔準備・課題〕実技内容をノートにまとめ、実践の復習をする。(1h～2h)						
5	実技：レクリエーション支援の方法Ⅰ-2「信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ2」、学外授業の説明(5月26日) 〔準備・課題〕実技内容をノートにまとめ、実践の復習をする。(1h～2h)						
6	講義(学外授業)：楽しさと心の元気づくりの理論Ⅱ「心の元気と地域のきずな」(ノートにまとめた内容を基に) 〔準備・課題〕講義内容をノートにまとめる。(1h～2h)						
7	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅱ-1「良好な集団づくりの方法1」 〔準備・課題〕実技内容をノートにまとめる。(1h～2h)						
8	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅱ-2「良好な集団づくりの方法2」 〔準備・課題〕実技内容をノートにまとめる。(1h～2h)						
9	講義：レクリエーション支援の理論Ⅱ「良好な集団づくりの理論」、学外授業の説明(6月9日) 〔準備・課題〕講義内容ノートにまとめ、学外授業の準備をする。(1h～2h)						
10	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅲ-1「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法1」 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h～2h)						
11	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅲ-2「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法2」 〔準備・課題〕学修内容を振り返、りノートにまとめる。(1h～2h)						
12	実技(学外授業)：レクリエーション支援の方法Ⅲ-3「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法3」 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h～2h)						
13	講義：レクリエーション支援の理論Ⅲ「自主的、主体的に楽しむ力を高める理論」、学外授業のまとめ(ノートを基に) 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。(1h～2h)						
14	実技：レクリエーション支援の方法Ⅲ-4「自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法4」 〔準備・課題〕学修内容を振り返り、ノートにまとめる。](1h～2h)						
15	実技：チャレンジ・ザ・ゲーム記録会、ノート(課題)の確認 〔準備・課題〕記録をノートにまとめ、前期の振り返りを						
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること。(参加手続きが必要な場合が有ります)						
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう一所懸命に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。オフィスアワーは研究室(H203：H号館2F)で毎週金曜日12：15～12：45です。						



【EA】 スポーツ・レクリエーションⅡ		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	中野 由香里						
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業内容	子どもから大人まで幅広い年齢層で自分に合った軽スポーツやレクリエーションを楽しむ人が増加しています。コミュニケーションを深めるためのゲームやニュースポーツを中心にレクリエーション的な要素を取り入れながら実践します。また、スポーツ・レクリエーションに関する知的理解と指導法について学びます。11月2日（土）は、学外授業となります（授業時に説明します）。						
授業方法	レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指し、授業は主に体育館で実施します。						
到達目標	知識・理解	各種目の競技特性を理解し、実践することができる。			◎		
	思考・判断・表現	保育者として、状況を把握判断し、主体的に活動することができる。			○		
	技能	学んだ知識や技能を保育や地域活動等で活かすことができる。			○		
	関心・意欲・態度	レクリエーション・活動の中で仲間と協力することができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート		15	-	-	-	15
	自己評価		15	-	-	-	15
	発表		-	20	20	-	40
	受講態度		-	-	-	30	30
	合 計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項	レポート、自己評価、発表(2回)、は出席カードを基に評価します。受講態度は、毎時間の取り組みを評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり』公益社団法人 日本レクリエーション協会(1,800円) ISBN:978-4-931180-95-6 『アイスブレイキング集』公益社団法人 日本レクリエーション協会(900円) ISBN:978-4-931180-72-7						
参考書・教材	幼稚園教育要領具解説、保育所保育指針、ほか必要に応じて配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、学外授業の説明 〔準備・課題〕授業内容を理解し学外授業の計画を立てる。（1h～2h）						
2	コミュニケーションワークⅠ（個人ゲーム） 〔準備・課題〕個人ゲームについて理解し、手づくりのゲームを準備する。（1h～2h）						
3	実技：岐阜県レクリエーションフェスティバル「グランドゴルフ大会」 〔準備・課題〕大会の記録をまとめ、大会内容をノートにまとめる。（1h～2h）						
4	目的に合わせたレクリエーション・ワーク（ドッジボール） 〔準備・課題〕ドッジボールのルールを理解し、ノートにまとめる。（1h～2h）						
5	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル（スタッフとして） 〔準備・課題〕学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）						
6	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル（スタッフとして） 〔準備・課題〕学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）						
7	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル（参加者として） 〔準備・課題〕学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）						
8	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル（参加者として） 〔準備・課題〕学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）						
9	学外授業：岐阜県レクリエーションフェスティバル（参加者として） 〔準備・課題〕学外授業の内容をノートにまとめる。（1h～2h）						
10	対象に合わせたレクリエーション・ワーク（フライングディスク・ディスクゴルフ） 〔準備・課題〕ディスクゴルフのコースづくりを計画し、ノートにまとめる。（1h～2h）						
11	対象に合わせたレクリエーション・ワーク（ボールゲーム） 〔準備・課題〕これまでの授業内容をノートにまとめる。（1h～2h）						
12	活動領域に合わせたアクティビティ（伝言ゲーム） 〔準備・課題〕クリスマス会に向けて準備をする。（1h～2h）						
13	イベント企画Ⅰ（グループ作り、計画準備） 〔準備・課題〕クリスマス会の計画と準備をノートにまとめる。（1h～2h）						
14	イベント企画Ⅱ（企画準備・内容確認） 〔準備・課題〕クリスマス会の準備をし、ノートにまとめる（1h～2h）						
15	イベント企画Ⅲ（クリスマス会（発表）、まとめ、ノート（課題）の確認 〔準備・課題〕クリスマス会を振り返り、後期の学修内容をノートにまとめる。（1h～2h）						
時間外での学修	特定非営利活動法人岐阜県レクリエーション協会又は特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会主催の催しに積極的に参加すること。（参加手続きが必要な場合が有ります）						
受講学生へのメッセージ	スポーツやレクリエーションのおもしろさや達成感を十分に体験できるよう一所懸命に取り組んでください。安全には十分に注意し、運動のできる服装と体育館シューズは必ず着用してください。 オフィスアワーは研究室（H203：H号館2F）で毎週金曜日12：15～12：45です。						

【ES】児童文化の展開		幼児教育学科		2年後期			
		1単位	選択必修	演習	30時間		
教員	内藤 敦子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	内藤：幼稚園教諭 40年						
授業内容	幼児を取り巻く児童文化には様々なものがある。ここでは、伝承的なもの、童話、絵本、紙芝居や、子ども自身から発生される文化に目を向け、自分で即応できる表現力を身につける。						
授業方法	授業方法は、グループごとに課題に取り組み、発表する形で行う。発表後は発表までの話し合いの過程と感想、反省等をまとめたレポートを作成し、様々な児童文化の理解を深めていく。						
到達目標	知識・理解	様々な児童文化を理解し、いつでも、どこでも子どもたちの文化を楽しむことができるようになる。			◎		
	思考・判断・表現	児童文化の理解は子ども理解につながり、保育者としての子ども理解を深めることができる。			○		
	技能	調査や発表を通して、それに必要な技術や方法を身につけることができる。			○		
	関心・意欲・態度	グループ発表や表現活動を通して、コミュニケーション能力を身につけ、誰とでも柔軟に関わることができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	達成度		30	－	－	－	30
	レポート		－	20	－	－	20
	発表の内容		－	－	20	－	20
	演習態度		－	－	－	30	30
	合 計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	特になし						
参考書・教材	必要に応じて資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	・オリエンテーション 授業の概要と流れを知る [準備・課題]授業で行う学習の計画書を作成する。(1 h)						
2	・子どもの遊びを調査する [準備・課題]グループに分かれ子どもの「遊び」を調べまとめる。(2h～4 h)						
3	・子どもの「遊び」の調査報告をする。 [準備・課題]調査報告から学んだことをまとめてレポートにする(1 h)						
4	・調査した遊びの指導計画の作成する。 [準備・課題]調査した遊びを保育の中で生かすために、指導計画を作成する。(2h)						
5	・おもちゃを作ろう (1) [準備・課題]子どもと一緒にできるおもちゃを制作する。(1 h)						
6	・おもちゃを作ろう (2) 遊び方も工夫して、各自発表をする。 [準備・課題]発表から学んだことをまとめる。(2 h)						
7	・これまで学習してきたことをまとめる (1) [準備・課題]他の授業で学んできた児童文化をまとめる。(1 h) (例：シアター・ペープサート・手品・手遊び・おもちゃなど)						
8	・これまで学習してきたことをまとめ発表する (2) [準備・課題]他の授業で学んできた児童文化をまとめ発表する。(1 h) (例：シアター・ペープサート・手品・手遊び・おもちゃなど)						
9	・お話を作ろう (1) [準備・課題]保育の中で子どもと楽しむことができるお話を作る。(1 h)						
10	・お話を作ろう (2) [準備・課題]保育の中で子どもと楽しむことができるお話を作り練習する。(1 h)						
11	・お話を作ろう (3) [準備・課題]それぞれ発表する。(1 h)						
12	・子ども祭で発表するものを話し合う (1) [準備・課題]子ども祭で発表するものを決め練習する。(1 h)						
13	・子ども祭で発表するものを話し合い準備をする (2) [準備・課題]子ども祭で発表するものを決め練習する。(1 h)						
14	・子ども祭で発表するものの準備をし、練習をする (3) [準備・課題]子ども祭での発表のリハーサルをする。(1 h)						
15	・総合的なまとめ [準備・課題]児童文化についてまとめレポートにする(2 h)						
時間外での学修	課題の取り組みは、授業内だけでなく、授業以外でも練習、準備等に心がけてください。						
受講学生へのメッセージ	児童文化には様々なものがあります。自分の子供時代にどのような文化を楽しんでいたかを思い出し、取り組んでみましょう。 学んだことは、保育だけではなく、いろいろなところで楽しんでみましょう。 オフィスアワーは内藤研究室で毎週木曜日の昼休みです。						

【ES】特別支援教育Ⅰ		幼児教育学科		2年後期			
		2単位	選択必修	講義	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	学校教員20年						
授業内容	教育の現場では、特別な教育的ニーズを有する子どもに対して、適正な支援が求められています。本科目では、特別支援教育の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説し演習を通じて学びます。						
授業方法	講義形式 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。						
到達目標	知識・理解	特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。			◎		
	思考・判断・表現	支援者としての考え方と役割を理解し、自分なりの保育者観を持って、問題や課題に向き合うことができる。			○		
	技能	幼児児童生徒一人ひとりの考え方・学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	連携・ネットワークの視点・方法を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	－	60
	発表・レポート		－	5	10	5	20
	自己評価		5	－	5	－	10
	受講態度		－	－	－	10	10
	合 計(点)		35	15	35	15	100
評価の特記事項	3分1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。						
テキスト	『子どもと保護者のココロに寄り添う！エピソードで学ぶ！特別支援教育A to Z』松村 齋 明治図書 (1,860円) ISBN: ISBN-10: 4181226107 ありません。						
参考書・教材	授業時にプリント配布します。 授業時に適宜紹介します。 特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（文部科学省）						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	特別支援教育の現状 特別支援教育の意義、学校教育法一部改正による特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置、個別的教育支援計画の作成、学習指導要領の改訂等を解説する。 討論、発表を通じて問題並解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）						
2	視覚障害児の理解 視覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題並解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）						
3	聴覚障害児の理解 聴覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題並解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）						
4	知的障害児の理解 知的障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題並解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）						
5	肢体不自由児の理解 肢体不自由の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題並解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）						
6	病弱児の理解 病弱・身体虚弱の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題並解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）						
7	重複障害児の理解 重複障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題並解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出  [準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	<p>LD児の理解 学習障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）</p>
9	<p>ADHD児の理解 ADHDの児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）</p>
10	<p>自閉症児の理解 自閉症の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）</p>
11	<p>情緒障害児の理解 情緒障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）</p>
12	<p>特別支援学校の教育の実際 特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）</p>
13	<p>特別支援学級の教育の実際 特別支援学級の現状、教育課程の編成、指導の実際等について紹介する。 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）</p>
14	<p>通級による指導の実際 通級による指導の位置づけ、教育課程、指導の実際等について紹介する。 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）</p>
15	<p>小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際 通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、校内委員会、研修等について実際を紹介する。 討論、発表を通じて問題型解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[準備・課題]配布された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（2h～4h）</p>
時間外での学修	<p>特別支援教育に関する当事者の著書を数冊熟読し、当事者の思いが理解できる保育者となれるように常に心がけておいてください。 特別支援教育に関係する学会やシンポジウム等に積極的に参加するようにしてください。</p>
受講学生へのメッセージ	<p>幼稚園、小学校等では、現在、特別な教育的ニーズを有する園児児童生徒等の支援は大きな柱のひとつとなっています。積極的な機会を見つけて、学校園等に出向くように心がけてください。 オフィスアワーは、H号館H207号室 木曜日16時10分からです。</p>